

兵庫県民間病院協会会報

2025

1

令和7年 通巻647号

目次

年頭のことば

西 昂 (1)	齋藤 元彦 (2)	相澤 孝夫 (3)	猪口 雄二 (4)
加納 繁照 (5)	浜田 知昭 (6)	久元 喜造 (7)	八田 昌樹 (8)
高橋玲比古 (9)	橋本 創 (10)	森 光樹 (10)	常岡 豊 (11)
大村 武久 (12)	那須 範満 (12)	大江与喜子 (13)	藤 久和 (13)
具 英成 (14)	宮地 千尋 (16)	吉田 寛 (16)	森村 安史 (17)
栗原 英治 (18)	譜久山 剛 (18)	大西 尚 (19)	井野 隆弘 (20)
江尻 一成 (20)	東 靖人 (22)	北川 透 (23)	稲見 直邦 (24)
播間 利光 (25)	寺岡由佳里 (26)	西宮 謙二 (26)	道脇まゆみ (27)
野原 謙次 (28)	金澤秀市朗 (28)	岩城 一男 (29)	黒川 雅博 (30)
大島佐代子 (31)	池上 京子 (32)		

エリア情報 (神戸・東阪神・西阪神・東播)	33
協会だより	39
お知らせ	39
令和6年 協会のあゆみ	40
令和6年 会報総覧	42
(一社)兵庫県全日本病院協会だより	49
兵庫県病院協同組合だより	53
兵庫県病院企業年金基金だより	54

謹 賀 新 年

令和 7 年

一般社団法人 兵庫県民間病院協会
役員一同 (順不同)

会 長	西	昂	医 療 法 人 康 雄 会	西病院理事長
副会長	高 橋	玲比古	医療法人社団さくら会	高橋病院理事長・院長
副会長	橋 本	創	医 療 法 人 旭 会	園田病院理事長・院長
副会長	森	光 樹	医療法人社団一葉会	佐用共立病院会長
理 事	常 岡	豊	医療法人社団豊明会	常岡病院理事長・院長
理 事	大 村	武 久	社会医療法人甲友会	西宮協立脳神経外科病院理事長
理 事	那 須	範 満	医 療 法 人 尚 和 会	宝塚第一病院名誉院長
理 事	大 江	与喜子	医療法人財団樹徳会	上ヶ原病院理事長
理 事	藤	久 和	公益社団法人日本海員掖済会	神戸掖済会病院院長
理 事	具	英 成	公益財団法人甲南会	甲南医療センター理事長・院長
理 事	宮 地	千 尋	医 療 法 人 明 倫 会	宮地病院理事長・院長
理 事	吉 田	寛	医 療 法 人 寛 仁 会	吉田アーデント病院理事長・院長
理 事	森 村	安 史	医 療 法 人 樹 光 会	大村病院理事長
理 事	栗 原	英 治	社会医療法人社団順心会	順心病院理事長
理 事	譜久山	剛	医療法人社団医仁会	ふくやま病院理事長・院長
理 事	大 西	尚	社会医療法人愛仁会	明石医療センター院長
理 事	井 上	喜 通	医療法人社団緑風会	龍野中央病院理事長・院長
理 事	井 野	隆 弘	医療法人社団汐咲会	井野病院理事長・院長
理 事	江 尻	一 成	特定医療法人光寿会	城陽江尻病院理事長
理 事	東	靖 人	医 療 法 人 公 仁 会	姫路中央病院理事長
監 事	北 川	透	医 療 法 人 協 和 会	第二協立病院理事長
監 事	稲 見	直 邦	医療法人社団顕修会	すずらん病院理事長・院長



年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会

会長 西 昂

2025年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年は、阪神・淡路大震災から30年目の節目の年となります。NHK朝の連続テレビ小説でも神戸が舞台となり、私の病院の周囲でも撮影が行われていたようです。また、兵庫県でも「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」「繋ぐ」を基本コンセプトとした様々な30年の節目の事業が展開されます。

日赤が、2024年11月に実施した10代～60代以上の男女、合計1,200名を対象に調査した結果によると、阪神・淡路大震災について、知識の程度に関係なく「知っている」と回答したのは、全体の89.3% (1,072人) で、反対に、「全く知らない」人は10.7% (128人) で、このうち71.9% (92人) は10～30代が占めていました。阪神・淡路大震災について、「知っている」とした回答者でも、発災日が1月17日であることを知らない人は32.5% (348人) に上ったそうです。上記で「全く知らない」と回答した人も合わせると、発災日を知らないのは全体で39.7% (476人) に上ります。このうち66.4% (316人) は10～30代が占めていました。年始の神戸新聞にも、兵庫県では、震災後生まれの世代が4分の1を占めるまでになり、神戸市では震災を経験していない市民が全体の半数を超えている、との推計があると記されていました。30年という歩みの中で、世代交代が行われていくなか、兵庫県が新たにコンセプトとして追加した、これから先どのように繋いでいくかということが課題になりそうです。

阪神・淡路大震災後に、日本各地で地震だけでなく様々な天災が起こっており、今後も大きな災害は、

予測していないときに発生する可能性が高いです。それでも、30年前に我々が感じた悔しさやもどかしさが、教訓として活かされていることは多いと感じています。

昨年の診療報酬改定は、賃上げ部分の改定でしかなく、それも各病院の持出しが増えるような仕組みでした。さらに、諸物価高騰が病院経営を圧迫し赤字経営を余儀なくされる病院が多い状況のなか、業務改善等工夫しながらなんとか努力している一年でした。

2025年の干支は、乙巳(きのとみ)です。60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。努力が安定に繋がるような一年になる事を期待しております。また令和7年は昭和100年にあたります。歩みの先には未来があり、未来には過去の経験の軌跡が集約されています。1925年のことを知っている人はごくわずかですが、私たちの生活の中にその100年間の歴史が培ってきたものが生きています。阪神・淡路大震災の悲慘な思いやそこから復興してきた歩みを知っている人が数字上減ってしまっても、今後の災害に役立て繋いでいくことは新しい世代の人にも可能です。新しい視点も取り入れた未来への災害対策が必要ではないでしょうか。

今後も民間病院が地域医療の核として、安心・安全な医療が提供できるよう、山積する諸課題の解決に向け、会員の皆様と一致団結して取り組む所存です。本年も会員の皆様のご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

((医)康雄会 西病院理事長)



躍動する兵庫へさらなる挑戦



兵庫県知事 齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として2期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ1期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第1は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

第2は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドパビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第3は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしくお願いいたします。





2025年 年頭所感



一般社団法人 日本病院会
会長 相澤 孝夫

新年おめでとうございます。

辰年の昨年、成功につながるための努力が種子の内側でどんどん育っていく年とされていましたが、病院を取り巻く環境が厳しさを増し、多くの病院が経営困難な状況に陥り、病院は未来に向けての歩みを進めるどころか、経営維持に最大の努力を傾注しなければならない年となってしまいました。

人口減少と出生率の低下が持続的に続く我が国の未来は大変厳しいものとなることを「確かな未来」としてわれわれは認識し、この未来に向けての変革をわれわれが自ら起こさなければ、国の重要なインフラとしての病院を守ることができないことを痛感した1年でした。

2025年から先の人口は、これまでの体感を遙かに超える速度で変化していきます。政府は、このため我が国の未来に向けて異次元の改革を推進しようとしています。遅々として進まない現実があり、我が国は経済の低迷からも脱する事ができず、国力も望まれる状況には程遠い状態のままです。我が国の未来は暗澹たるものであると不安を抱かざるを得ません。

我が国の重要なインフラである医療を取り巻く環境も当然大変厳しく、病院経営は極めて困難な状況にあります。もはや単なる手直し程度の改善では対処できず、抜本的改革は必須であると思います。このような改革の実行には痛みも伴うことから反対する人もいますが、今は改革待ったなしの状況にあると思います。改革することを前提として、国・国民・病院界で痛みを分かち合う創意工夫が改革を進めるためにも重要です。この改革とその進め方について、日本病院会は会員の皆さんの忌憚のないご意見を伺ってまとめ、国に対し、提言・提案していきたいと思えます。しかし、日本病院会の提言・提案を国の政策に生かすよう強く促すためには、日本病院会が会員・賛同者を増やし、日本病院会の力を高め、一丸となって行動することが必要となります。

本年は巳年ですが、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年といわれています。すべての会員病院が地域の1病院として、その地域になくはならない病院となるために必要な改革を成し遂げ、地域貢献を果たし、さらに発展することを祈念するとともに、この1年共に奮闘することを約し、年頭所感といたします。





2025 新年の挨拶



公益社団法人 全日本病院協会
会長 猪口 雄二

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つつがなく2025年の新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、診療報酬・介護報酬のダブル改定がありました。診療報酬改定についてはほぼ賃上げ対応と言えるものでした。病院においては、患者数が減少傾向にある中で、食料費・光熱費をはじめとする諸物価の高騰や賃上げ対応による人件費増などで支出が増えており、赤字経営となる病院が非常に多くなっています。また、老朽化による建替えをしたくとも出来ずに閉院を余儀なくされる病院が増えているようにも感じています。日本病院会、全日本病院協会・日本医療法人協会の3団体で実施しました「病院経営定期調査」の結果や福祉医療機構が公表している医療法人の経営分析等においても、病院の経営状態が一段と厳しくなっていることが示されています。政府の令和6年度補正予算において、医療機関への支援策が示されましたが、近年稀にみる非常に苦しい病院経営状況であることを、政府等に対してデータ等で示しながら、引き続き病院団体で協働して必要な対応を求めていきたいと存じます。

さて、本年は、現行の地域医療構想の目標年となりますが、既に2040年を見据えた新たな地

域医療構想についての検討が進められており、昨年末に検討会のとりまとめが公表されました。2040年は生産年齢人口が現在よりもさらに少なくなる一方で、高齢者の割合はさらに増加します。そうした中で医療提供体制を持続させていくためには、医療提供体制や診療報酬等に関わるあらゆる施策について、抜本的な改革が必要であると考えています。診療報酬改定は2年に1回ですが、介護報酬との同時改定は2040年までにあと2回しかないことを考えると、残されている時間は決して多くはありません。

同じく、昨年末に、医師偏在対策についても総合的な対策パッケージが示されました。具体的な取り組みについては引き続き議論が行われますが、当協会としては、偏在対策の一つとして示されており、地域における総合医を増やすためのリカレント教育につきまして、2018年から日本プライマリ・ケア連合学会と共同で実施している「総合医育成プログラム」を活用していきたいと考えています。

医療DX関係では、電子カルテの標準化や電子処方箋、マイナ保険証など様々な施策が進められていますが、DXの推進には多額の初期費用とランニングコストがかかります。全ての医療機関に普及させていくためには、現場が活用しやすい環境を整えるとともに、費用面の全面的な支援が不可欠です。

医療機関の経営環境が非常に厳しい状況にある中で、我々が取り組むべき課題は引き続き山積しています。当協会としても組織をあげて、日本医師会や他の病院団体と協同し、様々な課題に一つ一つ丁寧に対応していきたいと存じます。

最後に、兵庫県民間病院協会の益々のご発展と、2025年が会員の皆様方にとって良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感



一般社団法人 日本医療法人協会
会長 加納 繁照

新年あけましておめでとうございます。

昨年末に2040年の医療提供体制を見据えた、「新たな地域医療構想に関するとりまとめ」が公表されましたが、我が国の医療が今後、新たな段階に入ることをうかがわせる内容になっています。これまでの地域医療構想は2025年時点における医療需要を踏まえて必要病床数を定め、病床機能の分化・連携を進めてきたわけですが、今後は85歳以上の人口の増大を見据え、医療と介護の複合ニーズへの対応、かかりつけ医機能、在宅医療、医療と介護の連携、ひいては人材確保も含めた、医療提供体制全般を構想することになります。地域に寄り添いながら密着した医療・介護を提供している私たち医療法人は、この取り組みにおいて主導的な役割を果たすことが求められるでしょう。

一方、コロナ禍以降の病院を取り巻く経営環境は劇的な変化を迎えています。「2023年度病院経営定期調査」で報告したように、病院経営は未曾有の危機的状況に直面していますが、その一つに病床稼働率の低下を挙げる声が少なくありません。私はその背景として2つの傾向に着目しています。一つは、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）といった、従来型の介護施設とは異なる、新たな形での

高齢者施設の急増です。2022年時点で有料老人ホーム利用者は61万人超で介護老人福祉施設の64万人に迫る勢いです。サ高住は28万人弱で、こちらは介護老人保健施設の35万人に匹敵する利用者数です。これら高齢者施設の特徴として、居住費や食費といったいわゆるホテルフィーが自費であること、そして株式会社によって運営されるケースの多いことが指摘できます。もう一つは、在宅時医学総合管理料と施設入居時等医学総合管理料の算定患者数が着実に増え続けていることです。2023年度では両者を合わせた算定患者数は前年度比6万人増の89万人に達します。この2つの動きは切り離して捉えるべきではありません。施設内で在宅医療を提供し、必要に応じて施設運営者の系列の訪問看護ステーションや薬局からの訪問によって賄う動きが想定されるのです。今後、ACP（人生会議）が社会に浸透していけば、看取りも含めた対応も十分考えられます。

私は住み慣れた住まいで暮らし、具合が悪くなったら医療機関にかかり、必要に応じて入院加療して、回復したら元の住まいに戻るという「輪廻転『床』」を提唱し、そうした流れは、ここから見ることにはできません。これが果たして、患者さん、ご家族にとって本当に幸せなことなのか、本格的に検討しなければなりません。受けるべき医療を受けられない事態があってはなりません。今後、これら有料老人ホームとサ高住を運営する株式会社の在り方、また在宅高齢者救急を担う民間の地域密着型二次救急病院との連携について、しっかりと議論を推し進めてまいりたいと思います。

私たちは本当に幸せな地域医療を実現すべく、今後も邁進してまいります。本年もよろしくお願い申し上げます。



年頭所感



兵庫県議会

議長 浜田 知昭

新年明けましておめでとうございます。令和7年の新春を健やかに迎えられることを謹んでお慶び申し上げます。

昨年は元日の能登半島地震、さらに8月には宮崎県日向灘の地震と大きな地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報も初めて発出されるなど、改めて大地震のリスクを意識する年となりました。

今年は阪神・淡路大震災から30年の節目の年です。震災の経験と教訓をいつまでも忘れることなく、世代や地域を越えて、未来に繋げていかなければなりません。兵庫が創造的復興の理念を生かした世界トップクラスの防災先進自治体となり、リードしていくことが求められます。

また、4月にはいよいよ「2025大阪・関西万博」が開幕します。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界中から多くの人々が集うこの万博は、兵庫に人・モノ・投資を呼び込む絶好の機会です。

歴史も風土も異なる個性豊かな五国からなる兵庫では、地域の人々が主体的に循環型農業や地場産業、芸術文化など地域を豊かにする取組を進め、未来を切り拓いてきました。こう

した地域のさまざまな取組の魅力を、それぞれの地域から発信する「ひょうごフィールドパビリオン」の展開を核として、官民の連携により兵庫の魅力を国内外に広め、兵庫への誘客とともに持続的な地域創生に繋げていくことが肝要です。

私の地元・洲本市の洲本城跡は、大阪湾を一望できるまさに南海の要塞と呼ばれるに相応しい堅城です。これを支える石垣群の多くは、自然石のまま積み上げる「野面積み」の一種「穴太積み」で、使われている石は大小さまざまですが、一つ一つ役割があり、全体として見事に調和が取れていると高く評価されています。

広大な兵庫を構成する地域や人々もまさに多様で、それぞれが大事な役割を担っています。人口減少や気候変動、科学・情報通信技術の急速な進展など社会が大きく変化する中、改めて県民一人ひとりが主役となり、オール兵庫で手を携えて前に進んでいくことが大切だと考えます。

県では昨年、いわゆる文書問題に端を発した県政の停滞と混乱がありました。一方で財政運営上の課題など喫緊に取り組むべき重要な懸案事項も山積しています。県議会としても、これら課題の解決に向け、対話によるコミュニケーションを通じた融和を図りつつ、未来志向で議論を交わしてまいります。

結びに、今後とも県議会の活動に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、素晴らしい年となりますことを心よりお祈りし、新年のご挨拶といたします。



年頭所感



神戸市長

久元 喜造

新しい年を迎えるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

兵庫県民間病院協会の皆様には、日頃より、救急医療をはじめとする医療提供体制の整備・充実といった本市の保健福祉行政に並々ならぬご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

本年1月17日で、阪神・淡路大震災から30年が経過します。神戸は、市民の皆さんが力をあわせて助け合うとともに、国内外のたくさんの方々から温かい支援をいただき、復興を果たしてきました。そしてこの間、大容量送水管の整備や防潮堤の整備・遠隔操作化など、災害に強いまちづくりを着実に進めるとともに、国内外の被災地支援、復興支援に積極的に取り組んできました。

この経験、教訓を次世代に継承し、広く国内外に発信するため、本年1月から12月にかけて震災30年事業を実施し、この1年を未来に向けた年としていきます。

また、春からはいよいよ神戸空港での国際チャーター便の運用が始まります。すでに複数の航空会社から就航計画が発表されており、神戸の陸・海・空の要衝としての機能がさらに強化されます。加えて、大阪・関西国際万博の機

会を捉え、神戸市においても、観光・ビジネス需要の創出を推進し、市内経済のさらなる活性化を図ります。

一方で、日本の人口は2008年をピークに減少しており、神戸市の人口も同じ傾向をたどっています。このような時代において、神戸市がまちづくりに追い求めるのは、未来にわたってこのまちを引き継いでいく「持続可能性」、まさに「SDGs」の価値観です。これからも神戸市は、豊かな自然の活用や保全、都心部の緑化に取り組み、神戸の文化や歴史を大切にしながら、持続可能なまちづくりを進めていきます。

併せて、誰もが安心して産み育てられるよう、妊娠・出産期から学齢期における切れ目のない子育て支援を充実するとともに、次代を担う子どもたちの教育の推進、健康・福祉の増進などに一層取り組んでいきます。

また、今後ますます複雑・多様化する医療需要に対応するため、行政は今まで以上に医療機関との連携が必要となります。新型コロナウイルス感染症への対応等を通じて築いた市内医療機関の強固な連携関係を活かし、様々な課題に対し皆様とともに取り組んでまいりたいと考えております。

神戸市はこれからも、時代の変化や要請を的確に捉え、未来を見据えたまちづくりに全力で取り組み、「海と山が育むグローバル貢献都市」の実現を確かなものにしていきます。皆様には、神戸市政に対しまして引き続きご理解とご協力を賜りますとともに、現在策定に向けて取り組んでいる新たな総合基本計画にご意見をいただきますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、本年が一般社団法人兵庫県民間病院協会の皆様にとって、すばらしい一年となりますことをお祈りいたします。

年頭所感



一般社団法人 兵庫県医師会
会長 八田 昌樹

あけましておめでとうございます。民間病院協会の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。旧年中は兵庫県医師会の会務や事業運営に多大なご支援ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げますとともに、本年も引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年は、阪神・淡路大震災から30年の節目の年です。兵庫県はこの震災の教訓から、DMATやJMATの創設に深く関わりました。昨年は、年初から能登半島地震が発災し、JMAT兵庫も救助活動を行うべく出動しました。被災地で統括業務を中心に活動しましたが、JMAT兵庫の隊員は開業医が多く、活動期間が限られてしまいました。今後は、長期間活動できる病院の先生方に隊員になっていただき、災害医療を行っていきたいと考えていますので宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

2025年と言えば、団塊の世代が後期高齢者になる問題の年です。高齢者人口は増加しますが、都市部以外の地域では人口減少のため、病院の経営が悪化しています。2024年の診療報酬改定で急性期一般入院基本料1の算定要件が厳しく

なり、特定集中治療室管理料の設定の変更、また新設された地域包括医療病棟入院料も基準・要件が厳しく算定が難しいことも要因です。

一方で、急激な人件費の増加、エネルギー価格の高騰に伴う食材料費や光熱費の増加だけでなく、医薬品費、医療材料費、消耗品費等の高騰もあります。我々医療機関は公定価格で運営しているため、コスト増加分を価格に転嫁できません。消耗品は保険償還されず、控除対象外消費税となって負担となります。

新たな地域医療構想は2040年を見据えたものですが、地域医療構想は保健医療計画の上位概念になったこともあり、もっと短いスパンで検討していく必要があります。病床機能報告の区分は、回復期が包括期に変更されましたが、今後どう捉えていくのか難しいところです。2025年には地域医療構想のガイドラインが検討予定です。地域によって医療事情は大きく異なっているため、各地域の地域医療構想調整会議での協議が重要であり、行政と地域医師会の協調が大切となってきます。これは、医師偏在対策にも関係しており、行政が一方的に進めるのではなく、地域医師会と連携して地域の実情を踏まえて検討していくことが大事です。病院の統合再編という集約的な方法だけでなく、人口減少地域において、民間病院が生き残っていく方策を行政と共に進めていく必要があると思っています。

兵庫県医師会は、本年も県民の健康と生命を守り、会員が安心して納得できる医療を提供できるように進めてまいりたいと思いますので、引き続き民間病院協会のご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
副会長 高橋 玲比古

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年末、神戸市民間病院協会神戸看護専門学校での授業がありました。ある学生から「動脈管開存症で左室肥大が起きるのはなぜか」という質問を受けました。1年生の学生ですが年齢は30歳くらいに見えました。休憩時間中に教科書を読み直してふと疑問が湧いたとのことでした。質問に答えながら私はその真摯な姿勢に大変感銘を受けました。社会人入試もある本校では多様な背景を持つ学生が真剣に学業に取り組んでいます。さて、本校の学費は入学金35万円その他に授業料や運営協力金を含めて初年度の納付額は100万円を越えます。決して軽い負担ではありませんが学生たちは看護師の資格取得を目指し、学費を工面しながら日々勉学に励んでいます。一部の学生はアルバイトをしながら学業を両立させ、また家族の協力を得て子育てをしながら通う学生も少なくありません。教員である私達も学生の経済的な負担にふさわしい授業を行うように努力しています。

さて、昨年4月から兵庫県立大学の授業料の無償化が始まりました。兵庫県のホームページによると、この施策は「兵庫の若者が学費負担を心配することなく、希望する教育を受けられるように」という目的で設けられたものです。教育における機会均等を推進する理念は素晴ら

しいものです。しかし、この制度にはいくつかの問題点も含まれています。神戸看護専門学校の学生からみると、県立大学の学生には年間100万円を超える経済的恩恵が提供されることとなります。県内のすべての看護学生も同じです。施策の恩恵が一部の『兵庫の若者』に限られているのです。地方税が原資となっている以上、すべての学生に平等に機会を提供するべきではないでしょうか。さらに教育界でのトレンドとしては大学の学費を一律免除する方針は少数派です。たとえば、東京大学では2025年度から授業料を約10万7千円引き上げ、年間64万2960円にすることを発表しました。この措置は、私立大学と比較しての格差是正を目的としたものであり、教育の質を維持・向上させるために必要な財源確保という背景があります。また、海外に目を向けると、スタンフォード大学の1年間の学費・寮費は約87,124ドル（1月5日現在のレートで1,370.2万円）であり、質の高い教育を受けるためには学生が一定の負担を担うべきだという考え方が広く受け入れられています（もちろん、各大学は家庭の所得に応じた学費免除を実施しています）。県立大学の一律無償化は、このような国際的な教育界のトレンドとは異なる方向性を示しており、再検討が必要です。さらに、授業料が免除されることで、教員の給与が学生からの納付金に依存しない仕組みとなり、教員と学生の関係が「対等な教育契約」から「無償サービス提供者と受け手」という質的变化を招きます。この教員と学生の関係性の変化が、教育の質や効果に影響を与える可能性もありこの点にも注意が必要です。

県立大学の看護学部には、56名の専任教員と421人の学生が在籍しています。学費無償化により、県立大学に合格した学生は大きな経済的恩恵を受けることとなります。一方、神戸看護専門学校の学生も、アルバイトや国、会員病院



の奨学金制度を利用しながら真剣に勉学に励んでいます。それでも、毎年経済的負担や生活状況などさまざまな理由で10名近くの学生が学校を去っていきます。富の再配分は、社会の公正や安定を維持するために行政が果たすべき重要な役割です。しかし、今回の県立大学の授業料無償化は特定の学生にその恩恵が偏ることで、教育機会の平等に課題を残しています。結果として、経済的格差を広げる懸念があります。公平で持続可能な政策の実現に向けて制度の再検討をお願いしたいと思います。最後になりますがこの一年が皆様にとりましてより良い年になることをお祈り申し上げます。

((医社) さくら会 高橋病院理事長・院長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
副会長 橋本 創

兵庫県民間病院協会の皆さま、明けましておめでとうございます。

今年は昭和で数えると100年になります。筆者は昭和25年生まれ、「昭和100年」の4分の3を生きてきました。今になっておもえば私の生きた昭和は戦後の復興を経て経済成長の時代、医療も皆保険制度が始まり老人医療費無料化など右肩上がりの時代でした。バブル経済はじけて平成では経済も医療も停滞、令和になるとGDPも世界4位になるなど衰退に入っている感があります。医療も国の状況に歩調を合

わせるように平成から令和になって閉塞状況から脱却できない状況です。

国が唱えてきていた「2025年問題」はいよいよ該当年に入りました。超高齢社会の様々な問題、増加する一方の独居高齢者、老老介護、認知介護等を解決するための方策として「地域包括ケアシステム」の構築が進められてきましたが、皆さまの地域ではうまく機能しているのでしょうか。また、病院の機能分化と連携を進めるための「地域医療構想」はコロナ禍の影響で頓挫している状況です。高齢化の進行、人口減少は地域医療に大きな影を落としています。令和7年は民間病院も、公的病院も生き残りをかけて意識改革を進めていく一年にしていく必要があると考えます。

明るい話題のない令和7年ですが、4月には関西万博が開催されます。1970年の大阪万博と比べると高揚感は感じられませんが、未来の医療への道筋を示してくれる万博に期待したいと思っています。

((医) 旭会 園田病院理事長・院長)

新年のご挨拶



(一社)兵庫県民間病院協会
副会長 森 光樹

新年あけましておめでとうございます。旧年中はお世話になりました。今年も宜しく願います。昨年のはじめは能登地震のニュースからのスタートでしたが、今年は災害の無い一年で



あります様に願っています。

さて、民間病院を取り巻く環境はますます厳しいものがありますが、中でも昨年6月からの保険診療改定に盛り込まれたベースアップ評価料が病院の人件費増に見合う点数にはなっていないで、これが病院経営の大きな負担になっています。それに病院の食事療養費は食材費、光熱費、人件費増で赤字が常態化し、また消費税の問題や固定資産税の公的病院との格差などあげてみればきりがありません。

当院の在る過疎地では小児高齢化、人口減が進んでいますが一定数の医療介護の必要な高齢者が残されています。しかし、医療介護を支える働く世代の減少や医師の減少で地域医療、包括ケアが危機に瀕しています。医師については研修医制度が変わり、専門医制度が進む中で、昨年の働き方改革でより地方に大学医局から派遣される医師は減り、新たに募集しても過疎地では生活が不便、スキルを磨けない、子供の教育環境などの理由から若い医師は応募してくれません。

西播磨では医師不足からの病院の廃院やクリニックへの転換がみられています。医師偏在の解決が地方の医療機関の廃院で解決すると、国や日本医師会は思っているのではないかと勘ぐってしまいます。医療介護が確かなものにならないければ過疎地の住民の流出は加速され地域そのものの崩壊につながります。取り残された地方の住民、医療機関にとっては残念な事です。地域医療提供体制の再構築の取り組みが急務なのです。

地方への医師派遣には県の養成医師派遣がありますが民間病院は除外されていて、大きな県立病院からの医師支援も民間病院は除外されています。このあたりの見直しから始めてはくれないかと願っています。事は急ぐのです。

((医社)一葉会 佐用共立病院会長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 常岡 豊

新年明けましておめでとうございます。コロナが一定落ち着いたと思ったら12月に入りインフルエンザが大流行しています。年末年始は診療で忙しく、多くの先生方は正月はゆっくり休む暇もなかったのではないのでしょうか。

今年の干支は乙巳(きのとみ、いつし)ですが、いくつか検索してみると、乙は草木の芽が曲がりくねっている象形文字であり、新しい改革を進めるけれども、まだまだ外の抵抗力が強くまっすぐに進めない状態、巳は今まで冬眠をしていた蛇が春になって、ぼつぼつ冬眠生活を終って地表に這い出す形を表す象形文字であり、地中でじっと冬眠していた生活を終えて地上で新しい活動をするという、従来の因習的生活に終りを告げるという意味があるそうです。古くは大化の改新が645年乙巳の年であり、1965年のいざなぎ景気もこの干支だったそうです。昨年の衆議院選挙では自公政権が過半数割れし、野党との協議なしでは予算が通らないハングパーラメントの時代となりました。今年はトランプ大統領が就任することと、我が国では参議院選挙の年でもあり、大きな時代の変化が押し寄せてきている今の日本の情勢にぴったり当てはまる干支のようです。何が起こるかわからない時勢の中であってもわれわれ医療者は時代の流れに逆らわず、上手に流れに棹さしつつ、日々病者とそこご家族のことだけを思い診



療を行いたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
((医社)豊明会 常岡病院理事長・院長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 大村 武久

明けましておめでとうございます。

昨年は正月に能登半島地震が発生し、不穏な幕開けとなりました。また、世界ではウクライナ、イスラエルなど各地で悲惨な戦争が解決策を見出せないまま、一年間が経過しました。そして、世界にとって重大な出来事はトランプ大統領の再選です。2025年はトランプ大統領の政策や思惑によって、世界が大きく揺り動かされることになると思います。

国内では、2025年は日本の政治の転換期になるかもしれません。過去数十年にわたる旧態依然とした政治からの脱却が期待されます。一方、県政は未だに混乱が収束していません。

このように、世界、日本共に今年も混沌としており、どんな一年になるのか誰にも見通せない状況にあります。

医療界においては、昨年の診療報酬改定により、大きな影響を受けました。その結果、2024年度の実績や病院の機能がどうなったか、今後分析されると思います。物価や人件費、材料費などが上昇していく中、医療・介護・福祉が取り残されていくことのないよう、政治の対応を

強く要望致します。

これからの医療・介護・福祉を考えますと、5年後、10年後、20年後はどうなっていくのかと大変不安に思うことがあります。まずは、今年一年が病院にとって少しでも状況が好転し、明るい年になりますようお願いしています。そのためには、全ての病院団体が団結して、国に厳しい現状を訴え、要望していくことが重要です。

兵庫県民間病院協会、そして兵庫県病院協会に対し、本年も御協力・御指導をよろしくお願い申し上げます。

((社医)甲友会 西宮協立脳神経外科病院理事長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 那須 範満

明けましておめでとうございます。

昨年はいろいろな選挙がありました。

アメリカ合衆国ではトランプ氏が大統領に返り咲きました。あのトランプ流の「はったり」に再び振り回されるのではないかと世界中が身構えています。しかし、一度経験していますので、案外、うまく対応できるかもしれません。トランプ氏はビジネスマンですので、世界経済を良くする可能性もあります。

我が国の衆議院選挙では与党が過半数割れとなりました。石破首相は厳しい政権運営を強いられるでしょう。社会保障政策も野党との協議は避けられませんが、民間病院にとって良い方



向に向かってほしいものです。

兵庫県知事選挙では齋藤知事が再選されました。辞職した時点では再選はないものと思っていました。SNSの影響力が大きくなった今、既存のマスコミは危機感を持っているようです。齋藤知事も過去の経験を生かして県政を前に進めてくれるものと期待しています。

これらの選挙結果は、新しい年にどのような変化をもたらすのでしょうか。

いずれにいたしましても、本年が民間病院にとって良い年になることを祈っています。

((医)尚和会 宝塚第一病院名誉院長)

染対策を熟知しているはずの医療従事者の間にももれなく、ただでさえ豊富でない人材に大きな負担をかけます。休暇返上で頑張ってくれているスタッフたち。働き方改革なんて言っていない状況に、みなさんのパワーにいつも頭が下がっています。

いえいえ 蝮局の上で頭を下げてはいけませんよ。いつでも出勤、活動できるように一巻目で蝮局を支えてくれている事務職員たち。その上の巻き目では実働する看護師や医師、他の医療スタッフたち、みんなに支えあげられてこそ病院としての機能を果たすことができます。首をもたげて見回し、いく方向、飛び出すタイミングをはかっています。国や行政にチョロチョロと物申す。民間病院協会は毒蛇ではないにしてもその鎌首をもたげて、財務省には手も足も出ないと言っていないで改善を求めて立ち向かっていく集団であります。病院を頼りにしてくれている患者さんたちのためにも、病院の体力をつけることこそが必要です。

今年もどうぞよろしく願い申し上げます。

((医財)樹徳会 上ヶ原病院理事長)

トグロ

蝮局を巻いたら手も足も出ない



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 大江 与喜子

巳年が回ってきました。蝮局を巻いた蛇は手も足も出ない……いいえ蝮局巻かなくても手も足もないです。けれど地に着いた一巻目は大きくどっしりと、そしてだんだん上に伸びてその中心から大きな頭を出して周囲を観察、嘲るかのようにチョロチョロ舌を出して威嚇します。

チャンスあらば飛び出そうと狙っています。そのために地に着いた下の段にはちゃんと尻尾が控えていて頭と連動してどちらの方向に動かすスタンバイしているのです。

この年末年始もキリがないほどのインフルエンザ（ときどきコロナ）の発熱外来が大繁盛。世の中の流行が病院内にこないはずはなく、感

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 藤 久和

謹啓 新春の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より、兵庫県民間病院協会の各病院様においては地域



医療の発展に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、2024年の診療報酬改定では多くの病院で体制の変更を余儀なくされた施設もあったかと思えます。また今後も地域医療構想をはじめとする社会システムの変革に伴い、私たち病院経営者を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されます。このような中で、いかに質の高い医療を提供しながら、持続可能な経営を実現していくかが私たちの大きな課題であると考えております。

新しい年の始まりにあたり、改めて地域医療における私たちの使命を深く胸に刻み、未来に向けて前進する決意を新たにしております。本年度、私たちの病院では新たに緩和ケア病棟を開設する予定です。この取り組みを通じて、地域住民の皆様へ寄り添い、心のこもった医療を提供していきたいと考えております。

2025年の干支はへび（巳）年にあたります。蛇は脱皮することより再生や復活を象徴するとともに、知恵や変容を表す動物とされており、私たちも新しい環境や困難に柔軟に適応し、進化を遂げるべき時であると感じております。先日、ある老々介護を实践されている患者との会話で「苦しい中でも一歩一歩進んでいけば、必ず光が見える」という言葉をいただきました。この言葉に励まされると同時に、医療者としての責任を改めて感じた次第です。

今年も地域医療の充実に向けて、皆様と共に力を合わせて取り組んでまいりたいと思えます。どうぞ本年もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

結びに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

（(公社)日本海員掖済会 神戸掖済会病院院長）

年頭所感



（一社）兵庫県民間病院協会
理事 具 英成

兵庫県の2025年、元旦は例年になく穏やかな朝を迎えているようだ。翻って2024年元旦はと思ひ当たり、人の記憶の覚束なさに我ながら改めて驚く。しかし、昨年は能登の地震に航空機事故が相次いで重なり、天候どころではなかった。また各地で戦乱が続き、きな臭い世界情勢がこれらの身近な災害に投影され暗く重苦しい一年を予測したことだけは覚えている。今に至ってもウクライナやガザの戦闘は続き、ガザは見る影もなく瓦礫の山となった。そうした廃墟に閉じ込められた人々の日常が当たり前のようになり、ともすれば世界の関心は薄れ私たち自身も感性の外に置き忘れていく。それにしても第2次大戦が終わり、人類はあれほど平和を希求したというのにこの惨状はどうしたことか。喉元過ぎれば熱さ忘れるとの諺の如く、80年の歳月は世代を入れ替え、敵と味方に分かれ乱暴な意見が堰を切り世界中が戦乱の世に帰るのであろうか。今まさに医療は人智を合わせてこのような世情に抗わねばならぬ。

そもそも国や民を守るのに一番大切なのは食をおいても糧食であろう。昨年は猛暑で天候は不順であったが、不思議に豊作と言われた。しかし店頭から米が消え価格が高騰し、売る米がない時期もあったようである。それに自分達を守るには武器や兵など戦力が必要と考える人々が近年とみに増えたようである。しかし皮肉な



ことに、水も電気やガスも生活のあらゆる局面でコンピューター制御が主役となった現代社会が物理的、機械的障害や攻撃にいかにか脆いことか。そう考えると病院はその代表格で電腦社会の脆弱さの最たるものになった。実際いくつかの病院はサイバー攻撃を受け日々の診療を停止せざるを得ないほど甚大な被害を受けた。これらの事例に恐れをなし当院も地域の基幹病院として可能な限りの対策に思いを巡らした。しかし、どのような障害に対してもそれらの全てを未然に防ぐのは容易でない。医療は最重要な社会インフラであるがデジタルは脆弱化と同義にもなる。ガザを見るまでもなく、平和でなければデジタル技術あってこそその現在の高度医療は存続できないと思ひ知るべきであろう。コロナ禍でもその一端が表出したように、パンデミックや戦乱の最終形は病院、医療機関、医療システムの崩壊であり、そこに飢餓に加えて戦傷と病魔が加わればなすすべがなくなる。埃と血にまみれ力なく肉親の手と腕の中で息を引き取る姿に明日は我が身かも知れぬと想像するのは考えすぎであろうか。街のあちこちに放置され、赤茶けて錆びついた戦車や大砲、それぞれの国、他国の援助による膨大な戦費の成れの果てである。

日本では少子、高齢化が大問題として認識されるようになって久しい。国をあげて今や社会医療費をいかに節減するかの議論が喧しい。昨年度75歳以上の保険料負担割合が改定された。そして今年からはおそらく高額療養費の上限が大幅に引き上げられる。一方、国立大学附属病院は300億円に迫る赤字見通しと報道されている。これに県や市が主管する公的医療機関の多くは数億円単位の赤字で喘いでいる。相当額の公費が投入されているにも関わらずこの結果である。そして、この後始末は債券であれ、税金であれ後先の違いはあっても民の支払うところ

になる。公費負担制度のない民間病院ではなおさら破綻の足音が迫っている。こうして見ると今の医療行政は公的医療機関と民間でダブルスタンダードの診療報酬が設定されているのが実情と言えよう。

然るに当面、行政は全国一律の診療報酬システムでは健全な医療経営が成り立たないことに目を瞑り、少なくともしばらくは病院であれ、診療所であれ財政破綻すること、もしくはそれによって淘汰されることを織り込んでいると推察するのは論理的帰結であろう。翻って2024年の春、日本医師会長は診療報酬改定について、中医協でしっかり反論、論破した結果、診療所の改定率5.5%を阻んだと誇ったとある。しかしながら全体の本体改定率は0.88%で、これには世間では賃上げコールが喧しい中で賃上げ対応の0.61%が含まれている。全く経営改善に繋がらない改定である。賃上げについても、昨年の平均賃上げ率が33年振りに5%を超えたと言われる中で、医療界はわずか0.61%の財源では5%に遠く及ばない。これで成果を誇られるとしたら日本医師会会員はおそらく大半が悲しくなるであろう。思うことか、おそらく医療界は今後、3～5年で大きな淘汰を受けるであろう。医療行政に関わる主管省庁はそれからおもむろに重い腰を上げるかもしれない。その時、国民医療を復元できるか、イギリスなど諸外国のようにがんの治療を受けるまでに数カ月という長い待ち時間を要するという状況を皆が受け入れるかである。それこそ老人は腹を切れとの過激な姥捨論はさておいても、今の若者も例外なく日々、年々、歳をとるのである。質の高い世界トップレベルの医療制度をどのように守り発展させていくか一人一人が問われている。

((公財)甲南会 甲南医療センター理事長・院長)



年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 宮地 千尋

地域における病院と介護施設との連携は、高齢者救急、感染管理、周死期のマネジメントにおいて重要です。

2024年の診療報酬改定により医療機関と介護施設の連携に関する加算が新設されました。これを受けて、2024年11月に神戸市内の医療機関と、介護施設に病院と介護施設の連携に関するアンケート調査を施行しました。

対象は神戸市内の100病院と神戸市内の特養、老健、介護医療院等のうち無作為に抽出した100施設です。回答率は23%でした。その結果をかいつまんで説明します。

1. 病院の介護施設との連携の契約締結については、同一法人内外を問わず、連携なしが最も多く、次に1～2施設との連携が多かった。介護施設は契約を締結している病院は1～4病院であった。
2. 病院・施設とも、契約を締結している場合の定期的な連携の方法は、オンラインで会議と実際に集まって会議開催が多かった。月1回の会議は負担が大きく、今回の改定後も連携の契約締結はほとんど増えていません。
3. 急変時の対応は、外来診療対応、入院受け入れが多く、往診・オンコールは少なかった。つまり介護施設は夜間・緊急時に往診してもらうより迅速に入院受け入れをしてほしいということです。

アンケート結果から見えてきたギャップは、医療側の治療が終了したら早く退院してほしい、介護側の医療的処置が無くなるまで退院を待ってほしいということです。

治療は終了しているが施設側の受け入れができず入院が長引く、医療的処置があると施設が対応できないということが問題です。医療依存度の高い利用者を施設で見えていくには、介護施設の喀痰吸引、経管栄養の特定行為の研修を受けた介護福祉士を増やす必要があります。そのため連携病院は実習先となり指導するように努める必要があります。

長期入院になる患者に対しては、それを予測して地域包括や療養病床に移しリハビリを継続するなど工夫が必要です。そのために自院にない機能は地域で連携する病院で補完する必要があると思います。

周死期とは死の前後の期間を包括的・連続的にとらえる概念です。高齢の患者の死に至るまで、その前後の治療・ケアを考えていくために病院と介護施設は連携して周死期のマネジメントを行うことが求められています。

((医)明倫会 宮地病院理事長・院長)

賀春



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 吉田 寛

新年明けましておめでとうございます。今年の干支は乙巳で、乙は植物の成長を、巳は蛇を



意味するとされています。蛇は豊穡・金運・強運等と関連して神威として崇められ、神事にも関わりが多いようです。脱皮を繰り返すことから創部治癒・再生・治療・医療の象徴とされているようです。久遠のギリシャ神話でも、医学の神アスクレピオスの持つ杖に蛇が巻き付いており、この杖はWHO・日本医師会・アメリカ医師会・日本救急救命学会をはじめとして、世界中の医師会・医学学術団体・医療機関・救命救急センターのロゴマークに使われているとのこと。各医療従事者が心に湛えた目標に達し、医療界にとって、成長と成就の年になることを懇望致します。

(医)寛仁会 吉田アーデント病院理事長・院長

Quarter



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 森村 安史

あけましておめでとうございます。

年初のご挨拶に何も楽しいことが思い浮かばない。暗い後ろ向きの内容では現実にそのようになってしまわないだろうかと不安になるので、今年の年頭のご挨拶は全く意味のないことをつらつらと語り、そのお役目を果たさせていただくことにした。

2025年となった。21世紀が1/4経過したのである。2000年問題でパソコンが混乱するとか、ミレニアムとかいった言葉が踊っていたのがついこの前のような気がしてならない。Quarter

を大切にす欧米文化と異なり、日本は10年を一昔と考える傾向にあるようだ。記念日や何かの表彰も10年ごとに行うのが日本的である。今年には阪神淡路大震災から30年のメモリアルでもある。

25を単位とする思考と、10を区切りとする思考はどこから生まれたのだろうか？ 25セント硬貨が流通していることから見ても数字に関する思いの違いがよくわかる。二十五円硬貨があったとしても日本ではまず普及しないだろう。

西欧と日本ではなぜこのような違いがあり、その思考方法の違いが日本人と西欧の人々との間での観念の相違として現れることがあるのかどうかを、調べた文献はあるはずだが、勉強嫌いな私はこれまでに学んだことはなかった。何事も感覚・感性・直感だけで今日まで生きてきた私である。このようなテーマにぶつかっても自分の感じ方を述べることしかできないのでご容赦いただきたい。

25を基本とする考えは分数で思考しているのではないかと思う。4で割る4分の1ずつで生き方を区分けしている西欧の思考に対して、日本人は10ずつ加算しながら人生を生きているように思う。メモリアルの10年は過去の10年を振り返り、次の10年に思いを馳せるのにはちょうど良い時間である。25年間と言われると私たち日本人の感性からすると長すぎるのである。四つに分けるという考え方はもしかしたら人間の四体液説の根底にも流れている思想なのかもしれないと思ったりもする。キリスト教の十字架も4分割である。「父と子と精霊と悪魔」という四位一体を唱えた思想もある。さらにユングは心の四機能を唱え、やはり4分割での説明をしている。このように「4で割る」思想はキリスト教文化圏には数多くあり、西欧思想の根底に根ざすものであるのかもしれない。



年頭のことば



2000年代に生まれた若者たちが職場にも現れた。彼らが医療界の中心になる頃には、もっと違う世界が広がっているだろう。次の4分の1世紀を生きる彼らの未来がもっと明るいものになることを信じて年頭の挨拶に代えたい。

((医)樹光会 大村病院理事長)

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

((社医)順心会 順心病院理事長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 栗原 英治

あけましておめでとうございます。

人口減少と超高齢化社会を迎え、地域医療構想が検討され、地域に合った病床数や必要な医療提供など、その対応が求められています。

こうした中、医療現場では、働き方改革、新たな診療報酬改定、医療DXの推進等があり、労働人口の減少の中、人件費の増加なども相まって、必要な人材確保がより一層厳しくなっています。

また、物価や、設備費、建築費が高騰し、もはや、経営上、新たに医療施設を建築することが困難になり、持続可能な病院運営をするには、新たな医療の生産性や効率化に向けた大きな変革が必要な時代になってきていると思います。

今後は、より一層、医療分野での外部環境のさまざまな変化に対して、その課題と向き合い、ひとつずつ解決していくことが求められています。

新しい年が、医療関係の皆様にとって、より良い年となりますことを祈念致します。

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 譜久山 剛

2024年は両親が相次いで亡くなったため、年賀のご挨拶を差し控えさせていただきましたが、本年もよろしくお願ひいたします。

この1月18日にはコロナ禍で長らく休止しておりましたヤングフォーラムを再開させていただき運びとなりました。

今年度は長英一郎先生をお招きして医療DXについてお話しいただこうと予定しております。

DXってなに？というところから。

(デジタルトランスフォーメーションと読みます、念のため)

ちょっと長いですが、厚生労働省のホームページから引用しますね。

保健・医療・介護の各段階（疾病の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求、医療介護の連携によるケア、地域医療連携、研究開発など）において発生する情報やデータを、全体最適された基盤（クラウドなど）を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることです。



(中略)

どうです？

僕が日々感じているやるせなさは、紙カルテの時代から変わっていない煩雑さ。

患者さんと話した内容を書いたり（カルテ）、伝えたり伝えられたり（診療情報提供書）、データを提供したり受けたり（画像はCD-R）してありますが、院内のデータを外部に共有するのになんでアナログにせなあかんのか。

診療情報提供書を電子カルテで書いて、採血結果とあわせてファックスって。

それを受け取った側が、また打ち直す（リーダーで読み込むことはできるけど）という、このムダ。

これをなんとかしたいです。

医療DXは、医療分野でのデジタル・トランスフォーメーションを通じたサービスの効率化や質の向上により、

- ①国民の更なる健康増進、
- ②切れ目なくより質の高い医療等の効率的な提供、
- ③医療機関等の業務効率化、
- ④システム人材等の有効活用、
- ⑤医療情報の二次利用の環境整備の5点の実現を目指すものであり、我が国の医療の将来を大きく切り拓いていくものです。

医療DXの実現に向け、「医療DXの推進に関する工程表」に基づき、

- ①全国医療情報プラットフォームの創設、
- ②電子カルテ情報の標準化等、
- ③診療報酬改定DXを3本の柱とし、取組を進めています。

以上、引用終わり。

この医療DXにより個々の医療機関にとっては部分的にデメリットもあるかもしれません。

しかし、業務の効率化によってそのマイナス分は十分埋め合わせができ、本質的な業務に時間を使えるようになるのではないかと期待して

おります。

この原稿がみなさまに届く折にはすでに開催後となりますが、ぜひよい学びの場になればと願っております。

今年もよろしくお願いいたします。

((医社)医仁会 ふくやま病院理事長・院長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 大西 尚

あけましておめでとうございます。

昨年はwithコロナとしての通常診療の継続、医師の働き方改革、診療報酬改定への対応、材料費、光熱費、委託費の高騰に伴う経営の圧迫などがあり、皆様大変であったと推測します。

診療報酬改定+0.88ポイントと言いながら、ふたを開けてみると、医業収入は大きく下回らないものの、診療報酬増加分以上に人件費に費やされ、材料費、光熱費の高騰が加わって、実際の利益は減少する結果となっています。

この状態が続くと民間病院としては、非常に厳しい経営状態に陥ります。少なくとも次の診療報酬改定まで耐え忍ばないといけないのが現実でしょうか。それ以前になんらかの処置が望まれます。

衆議院選挙、兵庫県知事選挙のあと、SNSでの情報拡散の有効性が報じられ、オールドメディアと称される新聞、テレビの操作された情報へのバッシングも聞こえてくるようになって



年頭のことば



います。そうすると、我々は何を信じてどのようにして正確な情報を得ていくのかしっかり勉強しないとイケないし、さらに情報リテラシーを高める必要があると思われま。今、国会で国民の所得増に向けての、論争が活発となっていますが、診療報酬で縛られた我々医療機関が倒産にならないように、診療報酬の改善を望みます。

大変な1年になるかもしれませんが、皆様にとって素晴らしい年となることを祈念いたします。今年もよろしくお願ひいたします。

((社医)愛仁会 明石医療センター院長)

り拡大傾向がみられます。アメリカのトランプ大統領がどのように介入するのか世界の動向に緊張を感じます。

さて、我々病院医療界では診療報酬のわずかな上昇に対し、職員給与の上昇、光熱費の上昇、そして給食費の上昇と経費が増大しており、前年度より大幅な減収となってきています。対応としては、入院稼働率を更に高めるとともに、外来受診率の向上に努力していかねばなりません。

本年もストレスの多い年となりますが、皆様には良い年となりますよう祈念致します。

((医社)汐咲会 井野病院理事長・院長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 井野 隆弘

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

今年の元旦、朝のニュース番組で能登の地震後の復興状況が伝えられていました。地震後の豪雨水害が重なり、ほとんど復興が進んでいませんでした。特に珠洲市の被害が激しく、少額ですが復興のための基金に寄付したこともあり、とても心が痛みます。国を挙げての強力な援助が望まれます。

世界に目を向けますと、ロシアのウクライナ侵攻が変わりなく続いており終結がみえず、またイスラエルのガザ地区への戦闘も更に過激になり、危惧されていた中東への波及が現実とな

近年の医療を取り巻く環境の変化について考える



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 江尻 一成

コロナによるパンデミックが終焉を迎え、海外からの旅行者で賑わってきました。

出生率が低下し、就労人口の減少によるマンパワー不足が労働集約産業の介護・医療業界で猛威を振っています。

他業種も就労者人口減は等しく影響していますが、ロボット・IT機器を使った無人化・省力化で人材不足や人件費等の問題は対応出来ますが、介護・医療業界は人を減らす事は敵いません。更に働き方改革やインフルエンザ・コロナ感染での職員感染による病欠など八方塞がりの状態です。

IT革命とかAIを駆使しての医療・介護を唱



えられています。現実には全く進む気配がなく、資金の裏打ちがない医療業界への参入は、IT業界も二の足を踏んでいるようで、関心が薄いようです。介護・医療の資金源は診療報酬で、政府の決めた定額制です。

様々な看護・医療のAI機器・DX化を行うのは診療報酬点数に裏付けされた原資が保証されない限り、IT化・DX機器への設備投資は困難である以前に、関係する機器メーカーが二の足を踏むのは当然の事です。

マンパワーに対しても他業種では就労希望者を海外に求めてきましたが、介護・看護・医療業界は言葉の壁による制約で、より高度な語学能力の規制により他業種より規制が厳しく、それ以前に円安による日本への就労希望の減少も問題になっています。

しかしながら最近では療養施設に海外からの就労者が徐々に増加してきているようです。

長い間不景気の時ほど困難なく職員募集が出来ていた医療業界は、好景気で湧く昨今は対応困難な状態です。

資格制度で裏打ちされた医師・看護師、コメディカルはまだしも、介護・事務職の慢性的な不足はこれからです。

診療報酬の据え置き、実質的減額が続き、更に電力を筆頭に様々な経費が増加に転じ、病院経営の圧迫要因になっています。

政府主導の給与水準上昇政策にも拘わらず、原資である診療報酬はアップする気配なく、更に薬価点数の毎年改訂による薬剤不足で感染症薬、咳止めや抗菌剤、更には解熱薬等の使用制限、その他ジェネリック薬にまで影響が及び、日常診療に重大な影響が及んでいます。

医療費削減政策の影響で民間のみならず、自治体病院の経営環境も年々悪い方向に向かっているようです。

コロナ禍のパンデミックは愚か、過去の医療

政策の検証もなされないまま新たな医療費削減・合理化・省力化政策が矢継ぎ早に行われようとしています。我が国は以前から様々な重大事故あるいは歴史的な重大事象の検証に関心を示さない癖があるようです。

特に終戦後の日本人が過去の事象の検証に関心を示さなくなってきたのかもしれませんが。災害が頻繁に起こる災害大国のせい、壊滅的な状況に陥ってからでないと始動しない癖があるように思われます。

災害の度に過剰な位の補助金で対応をし、結果の検証をしないまま予算の垂れ流しを止められずに膨張してきたように思われます。

その赤字国債の穴埋めが医療介護の予算削減で辻褄を合わせてきたようにしか思われません。慢性疾患で就労不能な患者の療養・介護費を犠牲にせざるを得ない我が国の状況は政府も国民も予算には関心を示しますが、決算には全く関心を示しません。企業経営であればあり得ないですが、使いきれないほどの予算案を決め、いったん獲得した予算が余れば補助金になっているような気がします。

最近、医薬品の不足・欠品が問題になっています。ジェネリックはおろか、正規品の薬剤も品薄で、特に抗生剤の欠品が頻繁に起こっています。

財務省の医療費削減の号令で診療報酬点数の過剰な減額が医薬品の単価が大幅に削減され、作っても工場の安全点検の原資も捻出出来ないような薬価点数に減額されたせいではないかと思考します。

秋の衆議院選挙の結果、与党が議席を大幅に減らし、今や野党の協力なしには国会運営は不可能な状況となりましたが、何故か国会審議が活発化したような気がします。

11月に博多で医療情報学会が開催されていたので出席して来ました。



1983年に設立された学会で、各分野の学会が合同で運営しているようで、糖尿病学会や腎臓病学会からの案内で知りました。

出席して判ったのですが、13桁のバーコードを使用してあらゆる薬剤や薬剤説明書、医療機器・消耗品のコーディング、更にはバイタルや医療行為、疾患名や病態・病状、介護情報等のコーディングをするというシンポジウムを聴講してきました。

2024年には閣議決定し、予算化されたとの事です。今や文章でも検索可能な時代に一昔前の技術を使用したバーコードの使用には少なからず疑問を感じました。

我々が知らないうちに様々な事が予算化されているのには驚きました。

マイナ保険証の普及ですら混乱が生じているのにも関わらず国民の健康情報の管理まで国主導で行われます。

来年は姫路市で開催されるので、関心がある諸先生は是非ご参加ください。

アメリカはトランプ政権Ver.2が発足されます。日本の経済への悪影響を心配するニュースが飛び交っていますが、円高になるとも言われていますが、予測困難です。

日本も金利のある世界になり、銀行融資の金利の上昇から様々な経済活動の経費増が予想され、それに伴い電気やガス等の光熱費料金、外注費その他諸経費の上昇にも関わらず、診療報酬が引き上がる可能性はなさそうで、2024年度の病院倒産は過去最高との事です。職員の待遇改善もままならない状況では医療サービスの低下の恐れがあります。

少なくともブルーーツースや生体認証機器、更にはロボット化・厨房のセントラルキッチン化など省力化可能なアイデアを安全性のみで禁止する事だけはやめて頂ければ幸いです。

((特医)光寿会 城陽江尻病院理事長)

年頭所感 2025



(一社)兵庫県民間病院協会
理事 東 靖人

新春を迎えるに当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、遅ればせながら当院は3年越しで準備してきました病院機能評価の受審を受け、無事合格することができました。民間病院協会の先生方や関係者の方々のご指導を受け、職員一同が努力したお陰とっております。

さて本年は団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる、あの2025年です。すでに3～4年前から患者や職員の高齢化、人員不足は超リアルなものとなっております。これが今後も続き、さらに進むと思われます。また社会保障費の増加を抑えることが必定です。昨年のトリプル改定も次の「2040年問題」を背景に医療費の抑制が意識された改定でした。さらに「賃上げ」を強制的に行わさせるため、ベースアップ評価料が診療報酬上に設定されたことが特徴でした。このベースアップ評価料をはじめ、新たな項目、算定要件、加算、施設基準や届出などが多数あり、複雑で理解が難しいものとなりました。ベースアップ評価料の兵庫県における算定率は、病院は90%ですが、診療所では20%に留まっています。

すでに昨年からテーマは2040年頃の医療体制に移っており、2025年以降をどう乗り切るか、という話は全くできません。私たちは現場のただ中で、立ち止まることなく手を打って



ゆくことを継続する一年になると思われま

す。今年の干支は「巳（み）」、すなわち蛇で、脱皮を繰り返し変化や成長を遂げる動物とされています。混迷の本年、蛇のようにしなやかに、したたかに医療を実現していく一年になることと思

います。以上、本年も引き続きのご指導ご鞭撻を願いますとともに、皆様のご多幸を祈念し新年の挨拶とさせていただきます。

((医)公仁会 姫路中央病院理事長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
監事 北川 透

新年あけましておめでとうございます。

地域包括ケアシステムとは、「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。」ということですし、地域医療構想は「各構想区域における2025年の医療需要と「病床数の必要量」について、医療機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）ごとに推計し、地域医療構想として策定」するもので、いよいよ「2025年問題」として懸念されていた2025年を迎えました。

我が国では2008年以降は人口減少が続いてお

り、これまでは戦後の第一次ベビーブームに相当する団塊の世代の方々が、60歳を過ぎても頑張っ

て我が国を支えていただいていた訳ですが、いよいよその方々も75歳以上の後期高齢者ということになります。一方で、戦後の1950年頃は約8割の方々は自宅で亡くなられていたのに対し、現在では逆に8割近くの方が病院で亡くなられており、厚生労働省は「全国での入院患者数は2040年にピークを迎えることが見込まれる」としています。以上から、高齢者を中心にさらに入院患者が増加するので今後しばらくは現在の病床は必要ですが、2040年を過ぎると高齢者人口の減少とともに一気に病床の需要は減少することが容易に予想されます。一方で、我が国では70歳以上の高齢者医療費無料制度が1982年まで続いていましたので、この前後に建設された病院も多く、また人口当たりの病床数はほぼ世界一多い状況にあります。これまでの厳しい診療報酬の推移もあり2023年度の一般病院の医業利益率は-1.2%です。一方で、病院建築費の平米単価は2011年20.8万円が2021年には42.3万円と10年で2倍以上に上昇していることが報告されており、建築費の高騰を考えれば、民間においては建て替えは容易ではありません。高齢者医療費無料制度により、女性が働きに出る機会も増え、労働人口が増加した結果、GDPは上昇し、高度経済成長を支えた側面はあったのかと思いますが、民間病院に対しては大きな課題を残してくれたように考えるのは私だけでしょうか？

昨年の診療報酬改定も大変厳しいものでしたが、今後もこうした傾向が続いていくことは、皆保険制度を維持していくためにはやむを得ないのかとも思います。一方で、医療は国民にとっては欠くことのできないものであり、地域で何が求められているかを考え、その医療をしっかりと提供していくことが民間病院にとっては重要なのではないかと考えています。



本年も、引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、
よろしく申し上げます。

((医)協和会 第二協立病院理事長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会

監事 稲見 直邦

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては穏やかな新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ると、After COVID-19となり日常が戻ってきたことで応援するヴィッセル神戸の試合に足を運ぶことが出来、J1リーグ連覇、そして5年ぶりの天皇杯優勝を見届けることが出来ました。チケットが取れる限り京都、大阪、横浜、東京、ホームであるノエビアスタジアムへ何度も応援に足を運びました。ヴィッセル応援団の管理しているゴール裏の席では、ビール等のアルコールも飲めず、座ることは許されない状況で飛び跳ねて歌を歌い、膝はがくがくになり、声もがらがらになることも多々ありました。しかし、リーグ優勝の決まった最終節、湘南ベルマーレとの試合では優勝セレモニー・最終戦ファイナルセレモニーにもピッチ上で参加することができました。

さらに天皇杯の決勝では、ガンバ大阪を1-0で下し、5シーズンぶり2度目の優勝を果たしました。東京・国立競技場でクラブ史上初の「リーグ&天皇杯二冠」の達成を見届けること

が出来た時は、これまでの疲れも吹き飛ばすようでした。

趣味の話に熱くなってしまいましたが、地域を盛り上げてくれるチームがあるというのは非常にありがたいことだと思います。私自身本当に元気をもらいました。

医療業界はまだまだ厳しい状況が続いています。

昨年の診療報酬改定でも十分なベースアップにはならず、医師の働き方改革等もまだまだ手探りで対応しているところです。さらに南海トラフ地震やサイバーセキュリティ対策・人材の確保等、考えることは多々あるかと思えます。

「2025年問題」と言われ続けてきた本年、状況が目まぐるしく変化する事が予想されます。その変化についていくためにも連携を密にして活動を進めて参ります。

最後に、新しい年が充実した幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。

((医社)顕修会 すずらん病院理事長・院長)





年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
事務長会

会長 播間 利光

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は地球上のあちらこちらで戦禍が続き、目を背けたくなるニュースばかりでした。元旦の能登半島大地震で明けた2024年、国内では総選挙、アメリカでも大統領選でした。地球温暖化の影響でしょう、とんでもない猛暑の毎日でした。降れば大雨、のような水害も多い年でした。エネルギー価格や物価高騰も、その収まりが見通せません。闇バイト、〇〇詐欺、危険運転にアオリ運転……。若者の無職、貧困も根底にあるのでしょうか。ならば介護現場で働けよ！ そう簡単な話でもないのでしょうか。

さて、事務長会の皆様には、旧年中大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。皆様のご協力により、事務長会主催事業は計画通りにおこなうことができました。特に事務長会・看護部長会の合同研修会では、東播支部の役員の皆様のご尽力、ご参加の事務長・看護部長様のご協力にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

年が明けて2025年、どのような年になるのでしょうか。

病院を取り巻く環境はどうでしょう。さらなる物価高による医業費用の増加、病床稼働率の低下による収入減で、公定価格である医業経営

は益々厳しくなっていくと思われれます。現状維持はマイナスとの言葉が響いてきます。廃業される病院も増えていくことでしょう。1病院として事務長会としてできることは、現状を把握してもらうためにも、経営実態を反映するアンケート調査に迅速に対応し国に要望していくことです。アンケート結果の母集団が増えなければ、病院団体としての総意とみなされないのでは何卒ご協力をお願いいたします。一方で、人材採用の難しさは年々増加しています。定年延長や再雇用の年齢延長など、様々な人材確保を進めていく年にもなりそうです。事務長会としても、各支部の人事関係の情報収集を密におこないつながりながら、各々の病院の進むべき方向性の一助となれるよう、情報発信していくことが大切になると感じています。

2025年は巳年です。巳年は「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いをもつ年とされています。皆様の病院が安定して発展し、地域医療に益々貢献され、病院スタッフが健康でご活躍されることを祈念申し上げ、本年も本部と支部の架け橋となれるよう努める所存です。何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

((医社)健裕会 中谷病院副院長兼事務局長)





年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
看護部長会

会長 寺岡 由佳里

あけましておめでとうございます。民間病院協会の皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。日頃より民間病院協会看護部長会の活動に、ご理解ご協力を頂いておりますことを厚く御礼申し上げます。また、看護部長会の皆さまには、旧年中大変お世話になりありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。民間病院協会主催の研修会・研究大会や事務部長会・看護部長会合同研修会に昨年は、多くの皆さまにご参加いただき感謝いたします。

2024年は、年始から石川県能登半島の地震があり、災害で始まった悲しい1年でした。また、豪雨にも見舞われ被災地で暮らしておられる方にとってはとても辛く苦しい年を過ごされたことと思います。

また、私たち医療界にとっては、診療報酬改定がありました。急性期では、看護必要度による基準が厳しくなり、療養では、区分の細分化がされ、回復期では、加算の削除などで、急性期から在宅・施設までとても大変で苦勞が多い日々を過ごしました。時々発生するコロナクラスターは、重症化するリスクは少なくなってきましたが、診療報酬改定の余波と重なり、施設基準の維持や人員確保・調整など悩ましい限りでした。

2025年は、どんな年になるのでしょうか？

1999年から2000年に変わるとき医療機器などが誤作動を起こすのではないかという情報の中、ドキドキしながら年越しの夜勤をしていた事を思い出しました。あれから25年。ここ数年、働き方改革・タスク・シフト／タスク・シェアなどで、看護も随分変化してきました。この先も色々な変化があると思います。しかし、変わらないのは、患者中心の看護。現在、患者中心の看護を提供出来る環境を私自身が、スタッフに整えてあげられているだろうか？診療報酬改定の施設基準維持で奮闘している中、患者中心の看護を実践してくれているスタッフに感謝し、患者・職員双方が満足できる環境を提供出来るよう本年も努力していきたいと思っております。

最後になりますが、本年も会員施設・会員の皆さまが、ますます繁栄されることを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。皆さまにおかれましては、穏やかで良き一年であることをお祈り申し上げます。

((社医)甲友会 西宮協立リハビリテーション病院看護部長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
東阪神支部事務長会

会長 西宮 謙二

新年明けましておめでとうございます。

兵庫県民間病院協会会員の皆さまにおかれましては、良き新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。



2025年が幕を開け、心新たにスタートを切るこの時期、私は昨年の出来事を振り返りつつ、これからの目標を定めております。2024年は多くの挑戦や学びがあり、特に人間関係や仕事において成長を感じることができましたが、一方で反省点も多々ありました。

昨年を振り返ると6月に地域包括医療病棟新規届出、12月に回復期リハビリテーション病棟入院料を3から1へ変更に力を注いだ一年であった中、コミュニケーションの重要性を再認識しました。「相互理解」、「問題解決能力の向上」、「感情の成長」、「フィードバックを通じた成長」等人間関係と成長は密接に関連していると思います。人はひとりでは成し遂げられない事が多いと思いますが仲間と一緒にであれば成し遂げる事も増えるはずです。

今年のテーマは「チャレンジと更なる成長」です。自分自身を常にアップデートし、未知の領域に踏み出す勇気を持ちたいと考えております。仕事では新しいプロジェクトにも積極的に取り組むとともに、プライベートでは趣味やスキルの向上を目指します。また、大切な人との時間をもっと大切に、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思っております。

新しい年が皆さまにとって素晴らしいものとなりますよう心から祈っております。職場の皆さま、ご家族さまやご友人さまと共に充実した日々を送り、目の前の全ての瞬間を大切にしていければ充実した一年になるのではないかと考えております。

最後になりましたが、会員病院様のご健勝とご発展を祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

((医社)智聖会 安藤病院事務長)

この2年間を振り返り、 今後に向けての提言

(一社)兵庫県民間病院協会
東阪神支部看護部長会

会長 道脇 まゆみ

あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまでこの2年間、東阪神支部看護部長会会長として、皆様のご協力のもと、無事に務めあげることができました。様々なことに挑戦させていただきましたのは、一重に会員の皆様のご協力があったからこそでございます。また、顔と顔を突き合わせて情報を共有することがいかに大切なことだと、改めて痛感しております。

東阪神支部の活動を振り返りますと、講師を招いての講演会を年4～5回開催し、毎回の講演会では100名ほどの方が参加してくださりました。講演会内容を皆様が興味を持てる題材にするため、毎講演会後に開催する役員会で、反省と次回講演会の課題解決と情報共有に努めました。

また、東阪神支部の体制を見直し、改革を実行いたしました。内容としましては、①支部内病院を4つのグループに割り振り、②困り事はグループ内で解決を図る、③解決できないことは会長にアドバイスを求める、といたしました。この改革により、看護部長様がお一人で悩んでいたことを、いつでも誰かに聞ける安心感が持てたとの声を頂戴し、少しでも看護部長様のお役にたてて良かったと思っています。また、改革にご協力いただいた方々にこの場をお借りし



年頭のことば



て感謝申し上げます。

さて、2026年度診療報酬改定を見据え、今から緊張しています。2024年度診療報酬改定により、看護必要度項目が算定できない等の話を耳にするようになりました。極めて驚いたのは、近隣の医療法人で7対1看護人員配置ができていたのが大病院と当院のみだという現状です。診療報酬改定により、今後ますます経営に苦慮し、看護を預かる私どものやる気を非常に失うような出来事が続いていくのではないかと危機感を持っております。患者様に寄り添う看護が出来なくなり、処置や点滴等が事務的に行われ、看護師としての本質が失われていきやしないかと、懸念しています。この最悪なシナリオにならないように、厚生労働省は数字だけにとらわれず、超高齢社会に対してもっと私たちが寄り添える看護を提供できるような環境を切に希望します。

((社医)中央会 尼崎中央病院副院長兼看護部長)

けが感染症法上も5類となって1年半が経ちました。沈静化はしているとはいえ陽性患者が出るたび戦々恐々としている現在です。当院は新興感染症協定締結を結んでいる医療機関であり2類感染症指定病院(結核)の役目を念頭に置きこれからも更なる地域医療への貢献を模索してまいります。

西阪神支部としては、2025年問題や地域医療構想の進捗を眺みながら看護部長会とも情報共有し、医療機関の連携を密にして対応していきたいと考えております。

昨年は元日に発生した能登半島地震から始まり旅客機の衝突、闇バイトの多発など暗いニュースが続いた年でした。今年は平穏で皆様の医療機関が益々発展されることを祈念いたします。

((医)喜望会 谷向病院事務部長)

2025年(令和7年) 年頭にあたり



(一社)兵庫県民間病院協会
西阪神支部事務長会
会長 野原 謙次

新年明けましておめでとうございます。令和7年の年頭にあたり御挨拶申し上げます。兵庫県民間病院協会西阪神支部事務長会会長の谷向病院の野原です。

医療機関のみならず社会全体に大きな脅威を与えていた新型コロナウイルス感染症の位置づ

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
神戸支部事務長会
会長 金澤 秀市郎

新年明けましておめでとうございます。

毎年、私の1年の始まりは幼少期からずっとお世話になっているお寺のお上人のお説教から始まります。そのお説教を聞き、自分自身の志を高く持ち過ごすようにしております。

今年は「乙巳歳」、文字の通りへびは脱皮する、即ち一皮むける、皮を破っての成長をし、新しい自分に生まれ変わるという意味があるようで



す。コツコツ頑張ってきた事が一気に花を咲かせるとの事ですが、逆に悪行が皆にバレて裁かれるとも言われております。

この「乙巳歳」は乙は“木”、巳は“火”を表すようで、火が燃えるようにその木がある。火が良い火であれば成長していく。この心掛けが大切なんだと思います。

この1年で取り組むべき事が数点ありますが、花が咲くようスピード感持って邁進しようと考えております。

今年も人材不足には悩まされる1年になるかと思えます。現状の保険診療システムの構造的に、自助努力のみで従業員の賃上げすることなど不可能に近いと感じます。一般企業のように賃上げしたいところではありますが、利益が大幅に減少する中で、更なる人件費の増額は経営を圧迫しかねません。賃金を上げてても利益は上がらない。かといって、賃金の不足感で、人材が流出すれば、病院の存続に関わります。

賃金を上げるのは人手不足が深刻化すればするほど上がり続け、今後も継続していかなければならず、人件費の負担が膨らめば採用コストを割くことが難しくなります。今や紹介業者に頼らざるを得ない状況下で、紹介業者も給与が高く、紹介手数料も多く取れる介護施設や訪問系にシフトしていき、ますます確保が難しくなってきました。

DX化などの設備に投資、システム導入によって業務効率を上げることができれば、従業員の生産性の向上を図ることができますが、それも簡単ではありません。

医療が成り立たなければ、投資や発展は難しいと全ての病院が抱えています。民間病院協会が今後も発展し、少しでも風向きが良い方向に向くように、事務長部会では意見交換の場を増やし、花を咲かせるお手伝いができればと考えております。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

((医)愛和会 金沢病院副理事長兼法人局長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
神戸支部看護部長会

会長 岩城 一男

新年あけましておめでとうございます。

旧年は会員の皆様には大変お世話になりました。

例年に引き続き新型コロナウイルスの対応に追われた去年でありました。しかしコロナ対応については、長く対応してきたこともあり、また、感染症としても感染法上の分類変更や、コロナ病床廃止もあり、感染症の取り扱いも大きく変わった一年でありました。その為、まだ予断が許されるわけではないですが、コロナ感染が大きくクローズアップされることもほとんどなくなりました。世間一般的にも警戒心は薄れていった一年であるように考えます。

また、昨年からは健康保険証が、マイナンバーカードに紐づけされ、従来の健康保険証は廃止となる動きが具体化されました。医療現場においても混乱が生じているなどの報道もあります。特に高齢者などには現場でも丁寧な説明が必要であると考えます。

昨年は、元旦から大きな震災があり、前途多難な一年の始まりとなりましたが、暗いニュースの中、スポーツではオリンピックイヤーであったり、米国のメジャーリーグでは、前人未



到の「50本塁打－50盗塁」を大谷翔平が達成したりするなど、明るいニュースもあった一年のように思います。特に彼の活躍は毎日のようにニュースとなっております。印象的なのは彼のコメントであり、いつも皆さんの支えがあるからできたことであると言うことや、チームの一員としてここに入れて嬉しいとの思いがコメントの随所にあり、謙虚さや、チームワークを重視する姿勢には感動を覚え日本の誇りのように思います。

昨年は、6年に1度の医療・介護・障害福祉サービスのトリプル改定がありました。主旨としては国が推進する在宅医療を充実強化していくために、今後、医療と介護が更に強い連携を促すような改定となることも予想されておりましたが、医療報酬の見直しが在宅医療の推進と言うよりも、その担い手でもある病院への締め付けともとれる厳しい改定となり、また、昨今の物価高が更に厳しさを増す形となっております。この改定には会員の皆様方も様々な意見がおありのことと存じますが、この厳しい状況に、会員の皆様と共に一丸となり検討対応していきたいと存じます。

看護部長会に於きましても、会員様方との連帯を、より一層深めて行けるよう運営していく所存です。会員の皆様方には、本年も例年と変わらない御協力を賜りたいと存じます。

((医社)中井病院看護部長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
東播支部事務長会

会長 黒川 雅博

謹んで新年のお慶び申し上げます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年は、10月に「第42回 事務長会・看護部長会合同研修会」を東播支部が担当し、会員の皆様と一緒に、有意義な温かい時間を過ごすことができました。皆様のお力添えのおかげで無事に開催できたことを、この場お借りして感謝申し上げます。

また、年始の能登半島地震をはじめとして、地震や台風など多くの自然災害が発生した年でもありました。阪神淡路大震災から30年の節目を迎える本年も引き続きリスク管理への関心が高まる年となると思います。

今年の干支「乙巳（きのとみ）」は「努力を重ね、物事を安定させていく」年と言われています。巳（蛇）は脱皮を繰り返す、変化や成長を遂げる動物です。

「乙巳」の本年は、医療従事者一同が一丸となり、一層の努力を重ね、地域医療との連携を強化していくことで、持続可能な安定した経営、より良い医療サービスの提供へと繋げていきましょう。病院事務長として、様々な課題に取り組み、チームとともに前進、成長していく所存です。

また、会員の皆様との連携を更に深め、地域で信頼される医療機関であり続けるために尽力致します。



4月には、いよいよ「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとした大阪・関西万博が開催されます。医療分野においても最新の技術やアイデアが集まり、今後の医療の在り方に影響を与える重要なイベントになることが期待されます。

万博を通じて「いのち」の息吹を吹き込み、蛇のようにしなやかに、力強く伸びていける一年になることを祈願し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

((医)徳洲会 高砂西部病院事務長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
東播支部看護部長会
会長 大島 佐代子

新春のお喜びを申し上げます。

昨年は能登半島地震により多くの犠牲者を出す痛ましい出来事から始まりました。一日でも早く元の活気ある生活が戻ることを心より願っております。

1年を振り返り、昨今、甚大な災害が繰り返される中で、人々の命、健康、生活を守るために看護が果たす役割は非常に重要であると感じます。

また、感染対策が引き続き医療現場の課題として浮き彫りになる一方で、医療従事者の働き方改革やメンタルケアの重要性も改めて認識されました。

スタッフの中には疲れや迷いを抱える者も少

なくありませんでしたが、それでも懸命に患者さんと向き合い、互いに支え合う姿に私は何度も心を打たれました。今年、看護師一人ひとりがもっと安心して働ける環境を整え、その力を存分に発揮できる組織作りを目指していきたいと考えています。

そのためには、まず「対話」を大切にしたいと思っています。現場の声をしっかりと聞き、看護師たちが抱える思いを受け止め、それを職場改善や組織運営に反映させることで、全員が主体的に動ける職場を築いていきたいと思えます。

さらに、患者さんとの関係においても、看護部としての使命を深めていきたいと考えています。単に治療を提供するだけでなく、患者さんやそのご家族の「心」に寄り添う看護を実現するために、チーム全体で一丸となって取り組んでいきます。

2025年は巳年で、復活と再生を意味します。また、「実を結ぶ年」ともいわれています。2025年、「共に創る未来」という思いを胸に、看護部全体で新たな一歩を踏み出し、看護部組織が看護師にとって誇れる場であり、患者さんにとって信頼される場所となれるよう、全力で取り組んでいきます。

今年一年が会員の皆様にとって素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

((社医)順心会 順心病院看護部長)

年頭所感



(一社)兵庫県民間病院協会
西播支部看護部長会

会長 池上 京子

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年1月1日に能登半島地震が発生し、9月には豪雨災害も重なり、被災された皆様にはいまだ悲嘆の中にある方が多いことと思います。心より、復旧、復興をお祈りいたします。

さて、令和5年6月に、共生社会の実現を推進するための認知症基本法（以下、基本法）が成立し、令和6年1月に施行されました。この基本法において国及び地方公共団体には「認知症施策推進基本計画」（以下、基本計画）を策定し取り組むことが求められています。昨年12月に国から出された基本計画を眺めていて、当院の現状を踏まえてつぶやきたくなり、年頭所感として書かせていただくことにしました。

基本法で示された「新しい認知症感」とは、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。

認知症の治療薬として、レカネナブやドナネマブが発売され、認知症の進行を抑えると期待されています。しかし、いまだ認知症は進行性の病気であり、認知症と診断されれば、未来への希望を失いかねません。その中で、「新しい認知症感」により救われる方は多いと思います。一方、当院の現状では、新規入院の6～7割が、

BPSDを発症し、自宅や施設、一般病院での対応が困難になった認知症患者です。当院の看護研究により、患者のBPSDは入院1週間後より徐々に軽減し、8週間後にはすべての患者のBPSDが有意に軽減することがわかりましたが、自宅に退院される方は1割程度です。ターミナルケアを受ける方は数年前の2倍となりました。認知症治療病棟の患者は入院時の平均HDS-Rが6点で、そこから月日が経過していますので、重度から最重度となっています。ケアする職員の人員配置は一般病院より少なく、職員は9割が腰痛を抱えながら、声を掛け合い助け合って日々のケアを行っています。そして、「笑顔がみられた」「穏やかに過ごせた」ことが喜びであり、職員のモチベーションになっています。

基本計画を眺めていると、認知症の初期から中期の方が対象になっているように感じてなりません。認知症と診断されてから最期まで、尊厳を保持し自分らしく暮らせるようにするには、医療や介護の在り方でもう少し丁寧に計画すべきではないかと思っています。

今年は巳年です。巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年とされています。他にも巳（み）と実（み）を掛けて「実を結ぶ」年と言われたりもします。基本法が歩みを進め、実を結んでいけるような1年なることを願っています。

((医)古橋会 揖保川病院看護部長)

エ リ ア 情 報

神戸

(公社) 神戸市民間病院協会
令和6年12月度 第6回理事会

日 時 令和6年12月12日(木)
15:00～15:40
場 所 神戸看護専門学校 8階 講堂

理事総数15名 出席理事数13名
監事総数2名 出席監事数2名

出席役員

代表理事 (会長) 西昂 (議事録作成者)
理 事 高橋玲比古、吉田寛、宮地千尋、
金守良、荻原徹、稲見直邦、
吉田泰久、中井正信、上田大介、
笹野哲郎、大西安代、中野市雄
監 事 西村元延、飯塚敏勝

出席参与・参事

参 与 山本正之、具英成
参 事 横内幸男、阿児良典、谷口美幸、
岩城一男、稲城千賀子

上記のとおり出席があったので定款第33条の規定により会長 西昂が議長となり、開会を宣し議事に入った。

報告事項1 令和6年11月度管理部門並びに看護専門学校の収支報告

議長の指名により事務局長から、11月度管理部門並びに神戸看護専門学校収支について報告を行った。

報告事項2 学校報告

議長の指名により大西学校長から下記の報告を行った。

告を行った。

(1) 学生の状況

1年生:

令和7年2月25日～開始の基礎看護学実習Ⅱに向け、技術の練習に励んでいる

2年生:

12月20日(金)「災害医療論」授業の取材あり
(TV朝日、東海TV、読売新聞等)

講師:水谷 和郎 先生

六甲アイランド甲南病院

令和7年1月14日～2月20日 専門分野実習 (成人・老年、母性看護学実習)

3年生:

ケーススタディーのまとめ・発表に向け取り組んでいる

12月19日 ケーススタディー発表

12月20日 看護観について発表

国家試験対策として模擬試験・補習講義を実施している

11月以降

コロナ感染者1名

インフルエンザ感染者2名

冬期休暇:

1・2年生 12月25日～令和7年1月5日

3年生 12月25日～令和7年1月6日

(2) 2025年度入学試験について

一般入試 (一次試験): 12月10日

場 所: 本校8階講堂

試験科目: 国語・面接・書類審査

入試会議: 12月17日

合格発表: 12月18日

一般入試 (二次試験)

入 試 日: 令和7年2月5日

願書受付: 令和7年1月10日～21日

(3) 今後の予定

12月20日 13:30～16:30

臨地実習指導者研修会

エ リ ア 情 報

本校 8 階講堂にて開催

テーマ：心理的安全性の構築と対話的な
学習支援を行うために

講 師：折尾愛真高等学校 看護専攻科
高橋 聖子 先生

学校閉館：12月28日～令和7年1月5日

報告事項3 事務長部会・看護部長部会の取り
組み

議長の指名により事務局長から、事務長部
会・看護部長部会年末合同研修会（11月29日）
の実施報告を行った。

また、事務長部会、看護部長部会、協会事
務局の三者で実施する会員病院への研修ニー
ズ等に係るアンケート調査の質問項目を報告
した。

議題1 第29回神戸市医師会との懇談会につ
いて（報告）

議長の指名により事務局長から、第29回神
戸市医師会との懇談会（11月14日）について、
懇談内容の報告とともに、医師会が来年2月
初旬から運用予定の神戸市医師会医療従事者
専用求人サイト「神戸 de 医療のおしごと」の
情報提供及び会員病院に周知した旨報告した。

議題2 神戸市介護サービス協会会費について

議長の指名により事務局長から、神戸市介
護サービス協会からの令和6年度団体会費の
請求について、当該協会の概要、役員、団体
会費の算出根拠を説明し、その支出について
理事全員の承認を得た。

議題3 その他

1月理事会

令和7年1月8日(水) 15:00～16:00

合同新春交歓会

令和7年2月6日(木) 18:30～20:30

ホテルオークラ神戸

(一社)神戸市第二次救急病院協議会
第7回理事会議事録

日 時 令和7年1月8日(水)
15:45～16:50

場 所 神戸看護専門学校 8階 講堂

出席役員 理事12名 監事1名 実行委員7名
議 長 高橋玲比古 会長

議 題

1 神戸市幹部職員の新年挨拶

神戸市健康局、消防局から花田健康局長・
城月警防部長他、多数の幹部職員が来訪し、
年始挨拶に続き今年度の神戸市内での年末年
始救急患者数について言及され、速報値で近
年比較において最高数値を記録し、主にイン
フルエンザを含む発熱患者が急増した結果で
あるとし、それに伴い、救急搬送件数も急増
したとした。併せて、このような状況での二
次救急病院の受け入れ協力に謝意を述べら
れ、引き続き今年も神戸市の救急医療に対す
る協力依頼があった。

2 神戸市消防局からの転院搬送ガイドライン
改定について

神戸市消防局事務局から転院搬送ワーキン
ググループ（WG）の活動目的としての転院
搬送リソースの役割分担の明確化、医療機
関・民間救急・消防機関の連携体制の構築、「救
急消防車による転院搬送ガイドライン」改定
を実施する為に、昨年度までに検討された活
動実績報告及び今年度に運用予定の改定され
る新たな「消防救急車による転院搬送ガイド
ライン」に基づく転院搬送実施スケジュール
の報告があった。更に、この転院搬送システ
ムの運用開始を令和7年5月とし、改めて、
神戸市民間病院協会、神戸市第二次救急病院
協議会への協力を依頼された。

3 神戸市消防局から新システム近況説明と影響度調査への協力依頼について

神戸市消防局救急課より、昨年度から当協議会理事会にて消防局の新システム導入の紹介及び協力依頼を行ってから暫くの時間経過があり新システム導入への進捗状況の報告があった。現在消防局内にてシステム導入予算額獲得へ作業を進めており、そのシステムの方角性として当初当協議会が利用しているMefisシステムを内包する選択肢もあり、理事会でもMefisとの連携案と内包案を紹介していたが、予算・内包の難易度を考慮し連携案で検討を進めているとした。又、新システムによる消防署と二次救急病院との連携を検討する上で、予算額算定にも影響する二次救急病院からの要望・意見を収集する為にアンケート（影響度調査）を実施したいと提案された。これを受け、高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

4 令和6年度年末年始実績報告について

釜戸事務局長より令和6年度年末年始の実績報告があった。それによると、本年度は近年稀にみるインフルエンザを含む発熱患者の増大により昨年度同期間と比較して患者数は概ね45%増となった。診療科別で比較してみても、主たる診療科では全て患者増となっており、特に内科で70%増、小児科で190%増となった。又、来院方法別では救急搬送では25%増、walk inでは57%増となった。更に入院患者総数では20%増、救急搬送入院患者数では15%増となったとし、何れのケースも増大したと報告した。次に来院患者の受診特色については発熱患者インフルエンザ患者が突出していたが、例年通りのコロナ患者、外傷・打撲患者、下痢・嘔吐患者も複数報告があった。特に今年度は患者数の増大による医療機関での受診希望のTELが鳴りやまず、救急要

請に対応不可となる事があったと複数の医療機関からの報告もあった。この報告に加えて、オブザーバー有吉先生より中央市民病院での詳細な受診状況と三次救急3病院の患者数比較の報告もあった。これを受け、高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

5 年末年始強化期間の特別加算補助金について

釜戸事務局長より第5回理事会にて決議された年末年始特別加算金の令和6年度集計結果が報告された。それによると会員病院へ配分する加算金額は、3,600,000円となったとした。今年度も前年度と同様に神戸市からの年末年始等特別補助金が一定基準により支給されるので、その特別補助金は、2,844,048円となり当協議会からの支出は755,952円となるとしこの特別加算金は令和6年度補助金配分と同時に該当会員病院へ配分されるとも報告した。これを受け、高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

6 令和7年度からの理事会等会議のWeb導入について

釜戸事務局長より昨年の理事会より検討中の理事会等のWeb導入について昨年暮れに神戸市民間病院協会中野事務局長、飯塚税理士と具体的な対応策を検討したと報告があった。それによると、当協議会の場合は、先ず「理事会等へのWeb会議導入の規定」により、1. 導入の目的、2. 実施方法（①開催方法、②役員等への費用弁償の取扱い）を明確に規定し、詳細項目として②役員等への費用弁償の取扱いについては、従前から設けていた「役員等の費用弁償に関する規程」に新たに会議へのWeb参加についての項目を追加した。又、Web参加する役員等については、新たに執務協力金として報酬支出する事になり、所得税の源泉徴収を実行するとした。尚、このWeb

エ リ ア 情 報

会議導入の開始時期については、神戸市民間病院協会と同時に開始したいとし令和7年度（令和7年6月）からとすとした。これを受け、高橋会長が理事会に諮ったところ慎重に審議された後、異議なく承認された。

7 二次救急輪番制当番引受必須義務達成について（令和6年10月～12月）

釜戸事務局長より定款に則り標記状況についての結果報告があった。それによると輪番参加調整中の神戸徳洲会病院を除く44病院が当番引受必須の単位数（17.5単位）は無事にクリアされているとの事であった。これを受け、高橋会長が理事会に諮ったところ異議なく承認された。

東 阪 神

事務長会定例会 議事録

日 時 令和6年12月20日(金) 15:00～
場 所 小田北生涯学習プラザ 学習室1
出 席 伊藤、宮宗、向井、榊、岡田、井上、井内、植木、北本、西原、野崎、齋藤、野村、浦野、徳岡、堀、畑林、池上、鈴木、辻井、山本、川原、田島、辻脇
計24名

議 題

- 1 業者によるプレゼンテーション
「医療DX+電子処方箋」
(株)メディセオ・キャノンITSメディカル(株) 担当者
- 2 東阪神民間病院協会・尼崎民間病院協会合同院長会報告（担当：園田病院 池上）
12月5日(木) 都ホテル尼崎 於 17:00～

懇親会 18:00～（70名参加）

- ① 「h-Anshinむこねっと」について
- ② 医師の働き方改革について
- ③ 新型コロナウイルス感染対策について
- ④ 尼崎看護専門学校について
- ⑤ 医師会関係
- ⑥ その他（地域医療構想等）

協議事項として、今後の協会運営について

3 近畿厚生局・保健所立入調査情報交換（担当：各事務長）

保健所立入調査

11月26日 岡田病院

11月28日 樋口胃腸病院

12月3日・6日 立花病院

12月10日・12日 はくほう会セントラル病院

12月18日 川西リハビリテーション病院

調査内容に関して情報提供、意見交換がなされた。

4 第27回地域包括ケア病床研究会データ共有（担当：尼崎だいもつ病院 榊）

各病院の稼働状況等、情報交換がなされた。

5 その他

- ・会報編集委員より情報提供
- ・病院電気設備について
- ・各病院施設のBCP関連
- ・給食委託業者について
に関して情報交換がなされた。

次回開催 令和7年1月17日(金) 15:00～

西阪神

看護部長会 議事録

日 時 2024年12月12日(木)

14:30 ~ 16:20

場 所 フレンテ西宮

参加病院 21施設

議 題

1 11月実施の管理職研修『病院経営と看護』の振り返り

2024年11月30日、看護管理職研修を実施。

講師：医療法人原田病院 理事

原田 良彦 先生

参加人数：29名（看護部長7名含む）

職種：看護師

役職：副看護部長9% 師長（課長）40%

副師長4% 主任（副主任含む）27%

未記入20%

研修内容について：

理解できた72% やや理解できた24%

未記入4%

満足度について：

満足できた52% やや満足できた41%

未記入7%

参加者のうち9割以上が、理解ができ満足であったと評価されている。

【研修会の意見】

- ・経営戦略など普段知ることのできない話が聞けて勉強になった。
- ・看護が経営に直視しているということを理解した。
- ・理解はできたがなかなか実践できないのが心残り。
- ・新しい知識になりとても参考になった。

- ・経営について興味がわいた。
- ・財務管理や経営管理に対してわかっているようでわかっていなかった。視野を広げて病院経営に歩みよりたい。
- ・日頃の管理の中でのモヤモヤが少し軽減した。
- ・経験が浅く知識も不十分であったが研修を通して自分の病院の経営状態を知ることは大事だと感じた。そのうえで自分にできることを考え経営に参画していきたいと思える研修であった。

【今後の研修希望テーマ】

- ・様式⑨について現場で活かせる内容の研修・データの活用、交渉の場で活かせるデータの見せ方・クリティカルシンキング・施設基準や診療報酬について・メンタルヘルスケア・労務管理について等。
研修を通して、経営についてより興味を持ち、より深く学びたいと思える研修であった。
- 2 診療報酬改定から6カ月の経過報告
 - *看護補助体制充実加算について
取得に向けての準備として指定されている研修に参加している。派遣職員しかいないため加算がとれない。
海外の人材も増え維持が難しい。在宅復帰機能強化加算の取得に向けて準備している。
 - *身体拘束最小化チームについて
構成員の検討や指針の作成、身体拘束同意書やカルテ記録の確認、委員会の立ち上げ、講義（研修）、ラウンド方法の検討、拘束用具の確認等、準備中であるが、看護師の労力がかなり増えてきている。
医師の意識改革も必要。
 - *その他
 - ・認知症ケア加算1取得の取り組みを行っている。
 - ・GLIM基準を用いることになったが、評

働は栄養士がするのか、看護師がするのか、施設によって様々。

- ・人材確保困難にて、残業の適正化、定年年齢の延長を検討している。また実績と乖離をどう埋めていくか悩んでいる。
- ・看護必要度の基準が厳しい。病床種別の変更や病床数の変更も必要となる。

等、今年度の診療報酬改定から取り組みに難渋されている意見が多くあった。

3 伝達事項

- ・2025年3月(日未定)院長会・事務部長会・看護部長会 3者合同懇親会予定
- ・次年度の役員選出のお知らせ：次回定例会で選出
- ・兵庫県病院協会からのお知らせ：「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト／シェア」研修の案内
- ・神戸大学医学部付属病院からのお知らせ：初回臨地実習における実習指導者の確保状況に関する調査の協力依頼

次回定例会

日時：2025年2月14日(金) 15：30～17：00

場所：フレンテ西宮

第613回 事務長会・役員会 議事録

日 時 令和6年12月10日(火)

16：30～17：30

場 所 ホテルキャッスルプラザ

出席者 黒川、田中、西井、藤井、伊福、吉岡、船木、永田

協議事項

- 1 令和6年11月の会計報告
 - ・10月の収入支出報告及び決算報告 一同承認
 - ・次月繰越金額について協議
- 2 今年度の事業計画について
 - ・今年度中、追加で研修会は行わない。
 - ・次年度研修会の内容については看護部とも協議する。
- 3 医療情報交換 等
 - ・行政による監査に関する意見交換があった。
 - ・介護施設の会計情報公表に関する意見交換があった。
 - ・適時調査に関する意見交換があった。
- 4 その他
 - 次年度の会長、副会長 人選の件
- 5 次回開催予定
 - ・2025年1月14日(火) 16：30～
 - ホテルキャッスルプラザ



協会だより

- 令和7年1月 6日(月) 仕事初め
 16日(木) 理事会
 17日(金) 会報編集委員会
 18日(土) ヤングフォーラム

〔予定〕

- 令和7年2月 6日(木) 兵庫県医療審議会救急医療部会
 17日(月) 兵庫県医療審議会地域医療対策部会
 会報編集委員会
 19日(水) 理事会（兵庫県病院協会との合同開催）
 27日(木) 近畿病院団体連合会第2回委員会

お知らせ

兵庫県民間病院協会会員名簿（令和5年度版）の変更について

頁	病院名(※)	箇所	変更前	変更後
37	春日野会病院	院長	とよ だ まさ のり 豊 田 昌 徳	よし だ やす あき 吉 田 泰 昭

病院名(※)欄は、法人名等を省略して記載しています。

令和6年協会のあゆみ

1月

- 5日 仕事始め
- 15日 3団体連携協議委員会
- 18日 理事会
- 19日 会報編集委員会
- 20日 医政講演会
—厚生労働省関係者講演会—
(兵庫県医師会)
- 25日 兵庫県在宅医療推進協議会
(兵庫県医師会)
- 29日 病院構造改革委員会 (兵庫県)
- 31日～2月21日 下部尿路機能障害の
治療とケア研修会
- 31日 シンクタンクミーティング
(兵庫県医師会)

2月

- 2日 会報編集委員会
- 7日 事務長会幹事会
- 19日 会報編集委員会
- 21日 理事会
(兵庫県病院協会との合同開催)
- 29日 近畿病院団体連合会委員会
(京都府で開催)
- 29日 兵庫県医療審議会地域医療対策部会
(兵庫県設置)

3月

- 1日 兵庫県医療審議会医療法人部会
(兵庫県設置)
- 6日 近畿病院団体連合会事務長会
(滋賀県で開催)
- 8日 兵庫県医療審議会保健医療計画部会
(兵庫県設置)
- 11日 兵庫県感染症対策連携協議会
(兵庫県設置)
- 14日 肝炎対策協議会 (兵庫県設置)
助産師活用推進検討会 (兵庫県設置)
- 15日 R6県予算編成に対する要望の
回答と意見交換会
(自由民主党兵庫県支部連合会・
自由民主党兵庫県議会議員団主催)
- 15日 50周年記念誌発刊の記者発表
- 19日 会報編集委員会
- 21日 理事会
- 22日 兵庫県医療審議会本会 (兵庫県設置)
- 25日 病院構造改革会議 (兵庫県設置)
- 25日 50周年記念誌発刊

4月

- 18日 理事会
- 18日 会報編集委員会

5月

- 16日 理事会
- 17日 会報編集委員会

令和6年協会のあゆみ

6月

- 18日 会報編集委員会
- 20日 定時総会・特別講演会・懇親会

7月

- 3日 事務長会・看護部長会合同幹事会
- 4日 診療報酬改定研修会
- 17日 理事会(兵庫県病院協会と合同開催)
- 18日 会報編集委員会
- 30日 近畿病院団体連合会事務長会

8月

- 13日～15日 兵庫県医師会館の休館に伴う事務局業務停止
- 19日 会報編集委員会
- 24日 第19回研究発表会
- 29日 第1回兵庫県感染症対策連携協議会

9月

- 2日 兵庫県医療審議会地域医療対策部会
- 12日 近畿病院団体連合会第1回委員会
- 17日 会報編集委員会
- 19日 理事会

10月

- 3日 経営労務委員会
- 8日 病院構造改革委員会
- 17日 理事会
- 18日 会報編集委員会
- 22日 兵庫県感染症対策連携協議会予防計画部会
- 26日 第42回事務長会・看護部長会合同研修会
- 29日 近畿病院団体連合会事務局長会議
- 31日 兵庫県医療審議会本会 兼 保健医療計画部会

11月

- 11日 会報編集委員会
- 18日 会報編集委員会
- 21日 理事会
- 22日 兵庫県医療審議会医療法人部会
- 28日 県病院協会・県民間病院協会・県医師会との懇談会

12月

- 3日 令和6年年末特別講演会・懇親会
- 18日 会報編集委員会
- 27日 仕事納め

年頭所感

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会会長 西 昂
兵庫の新たなステージへ

兵庫県知事 齋藤 元彦

年頭所感

(一社)日本病院会会長 相澤 孝夫
2024 新年の挨拶

(公社)全日本病院協会会長 猪口 雄二

年頭所感

(一社)日本医療法人協会会長 加納 繁照

年頭所感

兵庫県議会議長 内藤 兵衛

年頭所感

神戸市長 久元 喜造

年頭所感

(一社)兵庫県医師会会長 八田 昌樹

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会副会長 高橋玲比古

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会副会長 橋本 創

新年のご挨拶

(一社)兵庫県民間病院協会副会長 森 光樹

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 常岡 豊

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 大村 武久

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 那須 範満
竜巻の年明け

(一社)兵庫県民間病院協会理事 大江与喜子

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 宮地 千尋

賀春

(一社)兵庫県民間病院協会理事 吉田 寛

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 森村 安史

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 栗原 英治

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 譜久山 剛

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 大西 尚

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会理事 井野 隆弘

年頭所感 2024

(一社)兵庫県民間病院協会理事 東 靖人

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会監事 北川 透

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会監事 稲見 直邦

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
事務長会会長 播間 利光

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
看護部長会会長 寺岡由佳里

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
東阪神支部事務長会会長 西宮 謙二

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
東阪神支部看護部長会会長 道協まゆみ

『あけましておめでとうございます』!! 2024年を迎えて
(一社)兵庫県民間病院協会

西阪神支部事務長会会長 下林 実

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
神戸支部事務長会会長 金澤秀市朗

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会
神戸支部看護部長会会長 岩城 一男

令和6年 会報総覧

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会

東播支部事務長会会長 黒川 雅博

新年に思う

(一社)兵庫県民間病院協会

東播支部看護部長会会長 矢野尾ひとみ

年頭所感

(一社)兵庫県民間病院協会

西播支部看護部長会会長 池上 京子

大江与喜子

8月 After COVID-19

(一社)兵庫県民間病院協会監事

(医社)顕修会 すずらん病院

理事長・院長 稲見 直邦

9月 貧しても鈍せず 2024年診療報酬改定が
もたらす民間病院経営の課題

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(公社)日本海員掖済会 神戸掖済会
病院院長 藤 久和

10月 医療と徳育

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(公財)甲南会 甲南医療センター

理事長・院長 具 英成

11月 JAL社長に聞く

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医)明倫会 宮地病院理事長・院長

宮地 千尋

12月 音色の妙

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医)寛仁会 吉田アーデント病院

理事長・院長 吉田 寛

巻頭言

2月 看護師養成の苦労話

(一社)兵庫県民間病院協会副会長

(医)旭会 園田病院理事長・院長

橋本 創

3月 BCPの再確認を考える

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医社)豊明会 常岡病院理事長・院長

常岡 豊

4月 業務改善の必要性

(一社)兵庫県民間病院協会監事

(医)協和会 第二協立病院理事長

北川 透

5月 病床機能と地域医療

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(社医)甲友会 西宮協立脳神経外科

病院理事長 大村 武久

6月 中・小民間病院の将来

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医)尚和会 宝塚第一病院名誉院長

那須 範満

7月 医は仁ならざる…

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医財)樹徳会 上ヶ原病院理事長

随筆

2月 Requiem

(一社)兵庫県民間病院協会理事

(医財)樹徳会 上ヶ原病院理事長

大江与喜子

事務長就任3年生

(医社)栄徳会 宝塚磯病院事務長

石川 享

Well-Being (幸福感)

(医)徳洲会 神戸徳洲会病院看護部長

中村 美津

令和6年 会報総覧

- 3月** 健康寿命、趣味寿命?、終活
 (一社)兵庫県民間病院協会監事
 (医社)顕修会 すずらん病院
 理事長・院長 稲見 直邦
 今何時?
 (医)康雄会 西記念ポートアイランド
 リハビリテーション病院事務長
 池内 基晃
 スタッフとの新たな想いと共に
 (医社)いちえ会 洲本伊月病院
 看護部長 木下 昌子
- 4月** 医療の未来を築くための工夫
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (公社)日本海員掖済会 神戸掖済会
 病院院長 藤 久和
 事務長就任から1年
 (医)達磨会 東加古川病院事務長
 永田 健
 昔も今も
 (医)ひまわり会 八家病院看護部長
 石橋眞壽代
- 5月** 外科医の区切り
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (公財)甲南会 甲南医療センター
 理事長・院長 具 英成
 消滅可能性自治体
 (医)聖医会 佐用中央病院事務長
 有瀬 将睦
 最近思うこと
 (社医)中央会 尼崎中央病院
 副院長 兼 看護部長 道脇まゆみ
- 6月** 日曜画家のひとりごと
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (医)明倫会 宮地病院理事長・院長
 宮地 千尋
- ことばのちから
 (医社)敬誠会 合志病院事務長
 井上 博喜
 きくこと
 (医社)それいゆ会 こだま病院
 看護部長 浦島真理子
- 7月** 自然との邂逅
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (医)寛仁会 吉田アーデント病院
 理事長・院長 吉田 寛
 協和マリナホスピタルとしての役割
 (医)協和会 協和マリナホスピタル
 事務長 小田原 隆
 診療報酬改定を向かえて
 (宗)セブンスデー・アドベンチスト教団
 神戸アドベンチスト病院看護部長
 足立 光生
- 8月** パリ五輪の開会式
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (医)樹光会 大村病院理事長
 森村 安史
 ワーク・ライフ・インテグレーション
 (医社)まほし会 真星病院
 総合支援部 部長 杉原麻理子
 看護の想い
 (社医)順心会 順心病院看護部長
 大島佐代子
- 9月** 2025年に向けて
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (社医社)順心会 順心病院理事長
 栗原 英治
 ChatGPTとの付き合いかた
 (医)公仁会 明石仁十病院事務長
 岸上源太郎
 めぐりあわせ
 (医社)みどりの会 酒井病院看護部長
 橋本 桂子

令和6年 会報総覧

10月 父、病院創設者の死
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (医社)医仁会 ふくやま病院
 理事長・院長 譜久山 剛
 災害に向き合うこと
 國富胃腸病院事務長 谷田 史朗
 自分の機嫌は自分でとる！
 わたしの幸せは、わたし自身が創るもの
 (医)晋真会 ベリタス病院看護部長
 岡村 千絵

11月 コーヒー好きのひとり言
 (一社)兵庫県民間病院協会理事
 (医社)緑風会 龍野中央病院
 理事長・院長 井上 喜通
 事務部長の仕事
 (医財)ヒューマンメディカル 尼崎
 新都心病院事務部長 西原 純次
 『和を以て貴しと為す』に思う
 (医)信和会 明和病院
 副院長・看護部長 末武 千香

12月 あらためて消費税から考えてみた
 (一社)兵庫県民間病院協会副会長
 (医社)一葉会 佐用共立病院会長
 森 光樹
 地域とともに歩む新たな挑戦
 (医)尚和会 宝塚第一病院事務長
 藤田 祐司
 歩く事は発見！
 (医)康雄会 西記念ポートアイランド
 リハビリテーション病院看護部長
 高田 郁子

病院かわら版

2月 (社医)甲友会 西宮協立脳神経外科病院
 3月 (医社)秀英会 神戸朝日病院
 4月 (医)共立会 共立会病院
 5月 (医)古橋会 揖保川病院
 6月 (医)朗源会 大隈病院
 7月 (医)敬愛会 西宮敬愛会病院
 8月 (医社)博愛恵秀会 神戸博愛病院
 9月 (医財)光明会 明石こころのホスピタル
 10月 (医)佑健会 木村病院
 11月 (社医)中央会 尼崎中央病院
 12月 (医)信和会 めいわりハビリテーション病院

新会員病院紹介

10月 (医社)甲北会 甲北病院

活動報告・その他

1月 令和4年度診療報酬改定に係る疑義解釈
 エリア情報
 神戸支部 理事会
 神戸市第二次救急病院協議会
 西阪神支部 事務長研修会
 西阪神支部 看護部長会
 東播支部 事務長会・役員会
 お知らせ
 ※会員名簿の訂正・変更について
 (一社)兵庫県全日本病院協会だより
 兵庫県病院協同組合だより
 兵庫県病院企業年金基金だより

令和6年 会報総覧

2月 理事会報告（令和5年度第8回理事会議事録）

「下部尿路機能障害の治療とケア研修会」の開催について

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会
西阪神支部 事務長研修会
東播支部 事務長会・役員会
西播支部 理事役員会
西播支部 事務長会・看護部長会

お知らせ

※会員名簿の訂正・変更について
（一社）兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

3月 理事会報告（令和5年度第9回理事会議事録）

令和5年度近畿病院団体連合会第2回委員会

令和5年度第2回近畿病院団体連合会事務長会

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会
西阪神支部 事務長研修会
東播支部 事務長会・役員会

お知らせ

※会員名簿の訂正・変更について
（一社）兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

4月 理事会報告（令和5年度第10回理事会議事録）

令和4年度・令和6年度診療報酬改定に係る疑義解釈

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会
西阪神支部 事務長研修会
東播支部 事務長会・役員会
西播支部 理事役員会
西播支部 事務長会

お知らせ

※令和6年度定時総会・特別講演会・懇親会のご案内
※会員名簿の訂正・変更について
（一社）兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

5月 理事会報告（令和6年度第1回理事会議事録）

令和6年度診療報酬改定に係る疑義解釈

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会総会
東阪神支部 事務長会定期総会
西阪神支部 事務長研修会
西阪神支部 事務長会総会
東播支部 事務長会・役員会
西播支部 理事役員会
西播支部 事務長会役員会

お知らせ

※令和6年度診療報酬改定研修会のご案内
※会員名簿の訂正・変更について

令和6年 会報総覧

(一社)兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

6月 理事会報告（令和6年度第2回理事会議事録）

エリア情報

東阪神支部 事務長会定期総会

西阪神支部 事務長研修会

東播支部 事務長会・役員会

西播支部 理事役員会

令和6年度診療報酬改定に係る疑義解釈お知らせ

※会員名簿の訂正・変更について

(一社)兵庫県全日本病院協会だより

兵庫県病院協同組合だより

兵庫県病院企業年金基金だより

7月 令和6年度第54回定時総会議事録

令和6年総会後の特別講演会・懇親会の開催について

令和6年度第1回事務長会・看護部長会合同幹事会議事要旨

「診療報酬改定研修会」の開催について

令和6年度誌上シンポジウム

「民間病院の雇用と人材育成」

エリア情報

神戸支部 理事会

神戸市第二次救急病院協議会

東阪神支部 事務長会定期総会

西阪神支部 事務長研修会

西阪神支部 看護部長会

東播支部 事務長会・役員会

西播支部 事務長会総会

西播支部 事務長会役員会

令和6年度診療報酬改定に係る疑義解釈お知らせ

※第19回研究発表会

※会員名簿の訂正・変更について

(一社)兵庫県全日本病院協会だより

兵庫県病院協同組合だより

兵庫県病院企業年金基金だより

8月 理事会報告（令和6年度第3回理事会議事録）

令和6年度第1回近畿病院団体連合会事務長会

エリア情報

神戸支部 理事会

神戸市第二次救急病院協議会

東阪神支部 事務長会定例会

西阪神支部 事務長会研修会

西播支部 定時総会

お知らせ

※第42回事務長会・看護部長会合同研修会

(一社)兵庫県全日本病院協会だより

兵庫県病院協同組合だより

兵庫県病院企業年金基金だより

9月 令和6年度第19回研究発表会

エリア情報

西阪神支部 事務長会研修会

東播支部 事務長会・役員会

お知らせ

※会員名簿の訂正・変更について

(一社)兵庫県全日本病院協会だより

兵庫県病院協同組合だより

兵庫県病院企業年金基金だより

10月 理事会報告（令和6年度第4回理事会議事録）

令和6年度近畿病院団体連合会第1回委員会

令和6年 会報総覧

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会
西阪神支部 事務長研修会
西播支部 理事役員会

お知らせ

◇会員名簿の訂正・変更について
◇令和6年年末特別講演会・懇親会の
お知らせ

(一社)兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

11月 理事会報告（令和6年度第5回理事会 議事録）

第42回事務長会・看護部長会合同研修会
開催報告

「令和6年病院給与・労働条件実態調査」
協力をお願い

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会

西阪神支部 事務長研修会
西阪神支部 看護部長会
東播支部 事務長会・役員会
西播支部 理事役員会

お知らせ

◇会員名簿の訂正・変更について
(一社)兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより

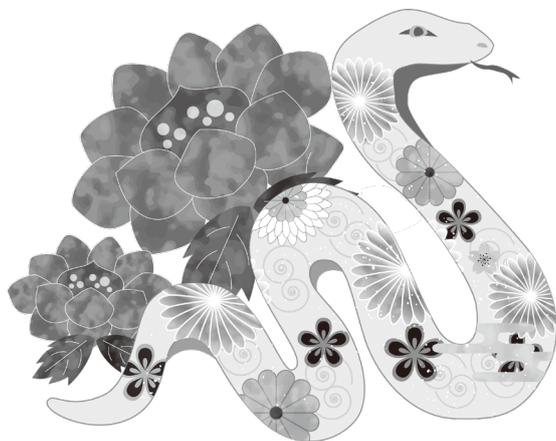
12月 理事会報告（令和6年度第6回理事会 議事録）

「令和6年年末特別講演会・懇親会」の
開催について

エリア情報

神戸支部 理事会
神戸市第二次救急病院協議会
東阪神支部 事務長会定例会
西阪神支部 事務長研修会
東播支部 事務長会・役員会
西播支部 理事役員会

(一社)兵庫県全日本病院協会だより
兵庫県病院協同組合だより
兵庫県病院企業年金基金だより



(一社)兵庫県全日本病院協会だより

公益社団法人 全日本病院協会

2024年度 第9回常任理事会

日時 2024年12月21日(土) 13:00～16:00

場所 全日本病院協会 大会議室

出席者 定数25名、出席21名

議事要旨 (抜粋)

【主な報告事項】

●中央社会保険医療協議会 薬価専門部会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第229回・2024.12.4)

- 2024年医薬品価格調整(薬価調査)の速報値として、薬価の平均乖離率は約5.2%で、後発医薬品の数量シェアは約85.0%であったことが報告された。
- 2025年度薬価改定について、①総論(診療報酬改定がない年の薬価改定)、②各論(改定の対象範囲、適用する既収載品目の算定ルール、③その他)について論点が提示され議論した。

●中央社会保険医療協議会 調査実施小委員会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第60回・2024.12.4)

- 第25回医療経済実態調査(医療機関等調査)について、前回での主な意見を踏まえ改めて論点が提示され議論した。

●中央社会保険医療協議会 薬価専門部会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第230回・2024.12.11)

- 日本製薬団体連合会、日本製薬工業協会、日本

ジェネリック製薬協会、米国研究製薬工業協会、欧州製薬団体連合会、一般社団法人日本医薬品卸売業連合会からヒアリングが行われた。

●中央社会保険医療協議会 総会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第599回・2024.12.11)

- 2025年3月1日収載予定の医療機器、2025年1月1日収載予定の臨床検査の保険適用が了承された。
- キイトルーダ点滴静注、リンヴォック錠、イミフィンジ点滴静注の最適使用促進ガイドラインが改訂されたため、保険適用上の留意事項通知を发出した旨が報告された。
- 先進医療会議における先進医療Aの科学的評価結果が報告された。

●中央社会保険医療協議会 薬価専門部会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第231回・2024.12.18)

- 2025年度薬価改定における論点として、①医薬品の取引実態を踏まえ、医薬品のカテゴリごとに薬価差の程度や役割等を踏まえた場合に「価格乖離の大きい品目」をどのように考えるか、②不採算品再算定を適用する場合、安定供給に対する効果は限定的であるという意見

がある中で、医療上の必要性が高い品目をどのように考えるか等が提示され議論した。

●中央社会保険医療協議会 調査実施小委員会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第61回・2024.12.18)

- 第25回医療経済実態調査案が了承された。

●中央社会保険医療協議会 総会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第600回・2024.12.18)

- 調査実施小委員会から、第25回医療経済実態調査(医療機関等調査)要綱案が提示され了承された。なお、同日開催された調査実施小委員会において、医療法人経営情報データベースシステム(MCDB)を医療経済実態調査と併せて活用することが要望されたことが報告された。
- DPC対象病院4病院の退出について報告が行われた。

●中央社会保険医療協議会 薬価専門部会について

津留常任理事より下記の報告がされた。

(第232回・2024.12.20)

- 2025年度薬価改定の骨子(たたき台)が提示され議論した。

●特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会について

猪口会長より下記の報告がされた。

(第22回・2024.11.27)

- 大学病院の現状と課題について大学附属病院本院からヒアリングが行われた。
- 大学附属病院本院の現状等及び大学附属病院本院の特定機能病院としての取扱い上の論点が提示され議論した。
- 大学附属病院本院における①医師派遣等の状況、②医療の開発・評価(研究)等の状況、③医療に係る研修(教育)の状況について論点が提示され議論した。
- 本検討会の今後の進め方について、年内でのとりまとめを予定していたが、年度末までに議論

のとりまとめを行うスケジュールに変更する旨提案があり、了承された。

●社会保障審議会医療部会について

神野副会長より下記の報告がされた。

(第113回・2024.11.28)

- 医療DXの更なる推進等として、①社会保険診療報酬支払基金の抜本改組、②医療等情報の二次利用に係る現状と今後の対応方針、③適切なオンライン診療の推進について説明が行われた。
- 美容医療の適切な実施に関する検討会報告書の概要について報告が行われた。
- 認定医療法人制度の延長等について説明が行われた。
- 医師偏在是正対策について、「新たな地域医療構想等に関する検討会」、「医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会」における検討状況を中心に説明が行われた。

(第114回・2024.12.18)

- 本部会で検討を行ってきた内容をとりまとめた「2040年頃に向けた医療提供体制の総合的な改革に関する意見案」について説明が行われた。委員からの意見を踏まえての必要な修正については、部会長預かりとすることで了承された。
- 2024年度補正予算における医政局関連部分について報告が行われた。

●医師養成過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会について

神野副会長より下記の報告がされた。

(第8回・2024.11.29)

- 政府において年末までにとりまとめを行う医師偏在是正対策のうち、本検討会の所掌となる医師の確保・育成に係る①臨床研修の広域連携型プログラムの制度化、②総合的な診療能力を有する医師の育成・リカレント教育、③医学部臨時定員、④診療科間の偏在について、現状・課題、取組案が提示され議論した。
- 提案された取組案については、大きな異論はなく、構成員から出された指摘等については、他の会議で議論されている医師偏在対策全体の議論を踏まえての修正を行う可能を含め、座長

預かりとして対応することが確認された。

●高齢者医薬品適正使用検討会について

美原副会長より下記の報告がされた。

(第19回・2024.12.11)

- 2024年度厚生労働省医薬局医薬安全対策課委託事業「高齢者の医薬品適正使用推進事業に係るアウトカム創出調査」事業の中間報告が行われた。
- 2025年度事業について、高齢者事業における今後の取り組みについて、現状と課題、今後の取り組みの方向性が提示され、①2024年度で検討した指標の検証、②ポリファーマシー対策を行い場合・行った場合の変化について調査することとした。

●循環器病対策推進協議会について

美原副会長より下記の報告がされた。

(第13回・2024.12.12)

- 本協議会の会長に永井良三氏（自治医科大学学長）、会長代理に小笠原邦昭氏（日本脳卒中学会理事長）が選任された。
- 循環器病対策の現状と中間評価の進め方について、循環器病対策基本法に基づく取り組み、循環器病に係る基本データおよび「脳卒中や心臓病等に関する世論調査」の結果概要などが紹介された後、第2期循環器病対策推進基本計画の中間評価の進め方について説明が行われた。

●救急・災害医療提供体制等に関するワーキンググループについて

猪口常任理事より下記の報告がされた。

(第9回・2024.12.20)

- 救命救急センターの充実段階評価の見直し案として、①救急外来における看護師の配置、②充実段階評価に関するピアレビューの実施、③重症外傷に対する診療体制整備、④第三者による医療機能の評価、⑤診療データ登録制度への参加と自己評価が提示され了承された。

●新たな外国人材の採用に向けたネパール視察について

山本常任理事より、新たな国から外国人材の採

用が必要であることから、外国人材受入事業会議で検討の結果、ネパールを選定し、2025年4月20日(日)～24日(木)に視察をすることが報告された。

●2025年度介護技能実習生等の受入れ意向確認について

山本常任理事より、2025年度介護技能実習生等の受入れ意向確認を当協会会員病院宛に実施することが報告された。

また、特定技能1号（外国人）受入れに伴う費用等について説明が行われた。

●全日本病院協会パンフレットの刷新について

宮地常任理事より、「全日本病院協会のご案内」パンフレットの刷新版について報告が行われた。

●各委員会報告について

- 広報委員会委員長の宮地常任理事より、Yahoo! ニュース「江口病院におけるJALとつくる日本一美味しい病院給食ご提供プロジェクト」の配信を予定していることが報告された。
- 病院のあり方委員会委員長の田中常任理事より、地域医療構想について、地域において利用可能なデータの範囲や検討の必要な事項の整理のため、松田特別委員に講義をいただき、次回以降、具体的な地域診断事例について検討することが報告された。

●厚生労働省、日医、各団体報告について

- 猪口会長より、2024年12月5日付事務連絡『医療機関への支援に関する「重点支援地方交付金」の活用について（光熱費等）（食材料費関係）』の説明が行われ、各都道府県支部で積極的に活用するよう要請した。
- 井上常任理事より、一般社団法人日本専門医機構理事会（第6回）の報告が行われた。

【討議事項】

●新たな地域医療構想等に関する検討会について
猪口会長より、12月18日に公表された「新たな地域医療構想等に関するとりまとめ」について、とりまとめまでの検討内容等が順に説明された。

11月8日に開催された第11回検討会では、①

在宅医療の圏域の設定単位の考え方、②かかりつけ医機能が発揮される制度整備、③医療と介護の連携の推進、④地域医療構想における外来・在宅医療・介護との連携等、⑤病床機能・医療機関機能の整理などが議論された。さらに医療機関機能として、①高齢者救急等機能、②在宅医療連携機能、③急性期拠点機能、④専門等機能、⑤医育及び広域診療機能が提示されたが、厚労省案には病院団体から異論が多くあり、四病協として対案を四病協医療保険・診療報酬委員会と協議し11月27日に公表した。

猪口会長の説明を受け、四病協医療保険・診療報酬委員会委員長である津留常任理事から四病協でとりまとめた「2040年に求められる医療機関機能について」の説明が行われた。四病協案では、【基本構想区域における医療機関機能】として、①地域一般急性期機能（高齢者救急対応）、②地域包括連携機能（在宅医療及び在宅療養支援）、③慢性期機能、④専門医療機能の4区分と、【より広域な区域における医療機関機能】として、①大学病院本院機能、②高度急性期拠点機能の2区分の計6区分とした。

猪口会長より、12月3日に開催された第13回検討会では、医療機関機能の「高齢者救急等機能」が、四病協案を受け、「高齢者救急・地域急性期機能」に改められたほか、「専門等機能」の具体的な内容に記された「高齢者等の中長期にわたる入院医療機能」が療養病床を意味するなどの修正案が出されたことが説明された。また、病床機能について、課題となっていた「回復期機能」の名称については、「包括期機能」とすることとされたことが報告された。

その後、12月18日に「新たな地域医療構想に関するとりまとめ」が公表されたが、とりまとめでは「救急・急性期医療」の部分について、「三次救急医療施設の在り方について検討する」との一文が追加されたことが紹介された。

今後の流れとして、とりまとめに基づき法制化が必要な事項については来年の通常国会に法案が提出される見込みであること、また、2025年度には都道府県が地域医療構想を策定する際のガイドラインを作成するための新たな検討会の設置することになるとの見通しが示された。

以上の説明を受け、「現在の地域医療構想における病床機能報告でも大変揉めた経緯がある。これに追加して医療機関機能を報告することになるため、説明が大変だと思う。また、急性期拠点機能は広域な区域における医療機関機能とすべきではないか」との質問が出された。

猪口会長は「高度急性期ならば高度急性期機能とか第三次救急のイメージになり、都道府県レベルの判断になるが、厚労省の説明は地域によって事情が違うとして明確にはしておらず、どちらでもとれるような表現になっている」と説明した。

また、「医療計画の中には外来機能報告が入っている。地域医療構想でも外来機能が入り、整理がますます難しくなる」との指摘に対して、猪口会長は「今後は地域医療構想が医療計画の上位概念となる。どう整合性を持たせるかについては、ガイドラインを検討する際に議論しなければならないと思う」と述べた。

「高齢者救急の定義は決まっているのか」との質問に対して、猪口会長は「いまのところ定義は作っていないと思う」とした。

また、「最終的に慢性期は、専門等機能の中で、高齢者等の中長期にわたる入院医療機能という形で示されたことは、医療療養も将来的な位置づけが見えてきたと考えてよいのか」との指摘に対して、猪口会長は、「医療療養が無くなるわけではない。医療療養でも救急を受け入れている病院が増えている。また、療養病床でも在宅医療に取り組んでいる病院もあり、在宅医療等機能で手上げすることも可能ではないか」と述べた。

さらに、猪口会長は「医療機関機能報告については、基本的には主たる機能を選択して報告することになるが、地域等の様々な事情に応じて、複数の機能を選択することも可能である。」と説明した。

猪口会長は、討議時間の制約もあったことから、今回の議論を踏まえて、次回理事会・常任理事会・支部長会（2025.1.10）で本件に係る説明資料を改めて作成し、再度議論したいと述べた。



兵庫県病院協同組合だより



金額単位：円
金額単位：円

12 月 度 事 業 報 告	種 目	件 数	取扱高	前年同月比	種 目	件 数	取扱高	前年同月比
	1. 融 資	0 病院			6. 牛 乳	1 病院	24,574	1,473
	2. 寝 具	26 病院	7,030,457	5,110	7. 防 虫	0 病院		
	3. 白 衣	22 病院	8,965,463	△ 512,820	8. 保 険 (手数料収入)		21	△ 6,050
	4. 患 者 衣	9 病院	690,463	△ 82,335	9. 飲 料 (手数料収入)		5,259	△ 822
	5. パ ン	0 病院			10. そ の 他 (手数料収入)		0	△ 5,159

兵庫県病院協同組合へのご加入のお願い

平素は、当組合の事業につきまして格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当組合は、兵庫県民間病院協会の関連団体として、同協会の事業部門的な役割をはたすべく昭和37年に設立され、以来60年にわたり、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な協同事業等を行ってまいりました。

現在、組合加入病院は120病院、組合純資産は200百万円超です。平成26年度からは出資金に対する配当金の支払いも再開しております。

当組合は、組合員病院のお役に立てるよう、病院事業に関する各種商品等の斡旋や情報提供に注力しています。

また、組合員病院の職員の皆様に、福利厚生の一助として、家庭常備薬等の安価での斡旋をはじめ、「洋服の青山」や「引越しのサカイ」と割引販売提携を締結して多くの職員の方々に

ご利用いただいています。損保ジャパン、アフラックの代理店として各種保険も取り扱っております。

つきましては、組合未加入の病院様には、ぜひ、当組合へのご加入をお願い申し上げる次第です。貴院の運営面や職員の皆様の福利厚生面での一助として、組合事業をご利用ください。組合事業の概要は本会報の最終ページに掲載しております。

加入に際しては10万円の出資金の拠出のみで、以降は年会費等のご負担もなく、退会の際には出資金を返却いたします。

組合への加入、事業内容の詳細、また斡旋商品等につきましては、ご遠慮なく組合事務局(TEL078-230-2525)までお問い合わせください。

兵庫県病院企業年金基金時価増減一覧表（2024年4月～2024年12月）

収益率計算方法 : 修正ダイアーズ法

金額単位：円

ファンド名	速確区分	2024年3月末 時価総額	2024年12月末 時価総額	増減額			複合ベンチ マーク騰落率
				掛金等	給付等	収益	
総合計	確	9,100,517,344	9,183,863,314	83,345,970	356,577,342	397,567,294	1.37%
みずほ信託合計	確	6,403,600,552	6,465,193,752	61,593,200	356,577,342	390,662,342	1.50%
みずほ信託バランス	確	5,149,179,301	5,166,048,469	16,869,168	356,577,342	390,662,342	1.00%
みずほ債券S.A	確	640,783,901	640,223,883	-560,018	0	0	-0.09%
みずほアラロン	確	613,637,350	658,921,400	45,284,050	0	0	7.38%
三井住友信託バランス	確	1,278,330,889	1,287,822,043	9,491,154	0	3,310,665	1.01%
三菱UFJ信託バランス	確	1,182,082,187	1,190,962,387	8,880,200	0	3,021,601	1.01%
りそなマルチ	確	236,503,716	239,885,132	3,381,416	0	572,686	1.68%

【月末マーケット指数】

	TOPIX		日興CB	日興BPI	NOMURA-BPI	配当込み	FTSE世界国債	MSCI-KOKUSAI	コール有担保	日経平均(円)	10年国債 為替(円/ドル)	10年国債 為替(円/ドル)	米国NYダウ(ドル)	米10年国債 為替(円/ユーロ)
	1.96%	14.33%												
2024年3月末	366.497	4,699.20	-	587.98	8,067.185	40,369.44	0.725	151.345	39,807.37	4.20	163.453			
2024年12月末	357.613	4,791.22	-	612.76	9,223.077	39,894.54	1.090	157.160	42,544.22	4.58	162.739			
年度末比上昇率幅	-2.42%	1.96%	-	4.21%	14.33%	-1.18%	-	3.84%	6.88%	-	-0.44%			

兵庫県病院企業年金基金のホームページ <http://www.hyogokenbyoin-kikin.or.jp>

ISR

Intelligent Social Reliance
アウトソーシング サポート



ISRビル (統括本部)

〒650-0026
神戸市中央区古湊通1丁目2番
(ISRビル)

(業務案内)
TEL 0120-366-761
www.isr-group.co.jp

社会保険労務士
ISR 梨本

働き方改革策定

労働条件・ハラスメント

労働保険事務組合
経営者会議

概算確定・労災特別加入

合同会社
ISR パーソネル

副業推進支援

人材紹介・リーダー育成

ISR e-Sports

シニア躍動・企業健康経営

株式会社
アイ・エス・アール

データセンター ISR

レポート管理・情報デザイン

ISRサテライトオフィス

リモートワーク・ウェブ会議

信頼・向上 そして社会貢献

男女共同参画社会づくり協定グループ (兵庫県)

病院年報・周年記念誌

承ります！

会報、大学要項など
70年以上の実績があります。



今ご覧いただいている会報誌も弊社で作成いたしました。

患者様向け小冊子

も承っています！

例えば、診察・入院・手術などの手引書を、
幅広い年代や、日本語が不慣れな方向けに

- ・ 翻訳
- ・ イラスト作成
- ・ ストーリー仕立てのまんが化

動画にも
できます

すべてまるっと、お任せください！

印刷以外も

ご依頼ください！



ホームページ



動画



デジタルサイネージ



看板



資料のデジタル化
(冊子・図面など)

情報をデザインする会社



株式会社 七旺社

URL : <https://www.shichiou.co.jp>

TEL : 078-575-5212

FAX : 078-577-8366

e-mail : info@shichiou.co.jp

〒653-0012 神戸市長田区二番町4丁目27番地



担当：佐藤 まで

医療・福祉のスマート経営に、
アプリケーションは自由自在。



多様な業務をコーディネートし、お客様に合ったサービスをお届けします。
業務内容の組み合わせも、お気軽にご相談ください。

医療・福祉事業経営のトータルアウトソーシング・ソリューション ワタキューグループの[包括委託サービス] (セイモアシステム)

包括的に一元的に医療経営・福祉事業経営をサポートする[セイモアシステム]は、ワタキューグループ各社の協力体制で実現しています。

- ワタキューセイモア(株) / リネンサプライ・販売・総合サポート
- (株) フロンティア / 調剤薬局事業・福祉用具レンタル・販売事業
- 日清医療食品(株) / 給食受託事業・在宅配食サービス事業
- (株) メディカル・プラネット / 人材紹介・派遣・研修事業
- 綿久リネン(株) / ホテル・レストラン向けリネンサプライ
- 古久根建設(株) / 総合建設業



健康と快適の明日を考える

ワタキューセイモア株式会社

www.watakyu.co.jp

近畿支店 / 〒610-0396 京都府綴喜郡井手町多賀茶臼塚12-2 TEL 0774-82-5101

神戸営業所 / 〒651-1301 兵庫県神戸市北区藤原台北町7-4-1 藤田建設ビル2F TEL 078-982-2940

業務案内

兵庫県病院協同組合 (設立昭和 37 年)

幹 旋 及 び 取 扱 い	基準寝具及び 白衣・患者衣の賃貸	○ワタキューセイモア(株)
	牛乳	○(株)共進舎牧農園
	ねずみ・衛生害虫防除	○アペックス(株)
	自動販売機による飲料	○(株)チェリオ Co.、ダイナミックベンディングネットワーク(株) 関西コーヒー(株)、(株)アペックス西日本、 関西キリンビバレッジサービス(株)
	保険代理店	○損害保険ジャパン代理店 (組合募集代理店…(株)インシュアランスサービス) 兵庫県民間病院協会の会員病院、従業員を対象とした自動車保険・火 災保険等の取扱い ○アフラック生命保険株式会社 (組合募集代理店…(株)エイフ) 組合員病院、従業員を対象とした集団扱い商品(がん保険)の取扱い
	自動車リース	○(株)イチネン
	家庭常備薬、サプリメント (対象:組合員病院の全職員)	○(株)諒和(旧 大日商事(株)) 組合員病院の職員の福利厚生及びその家族の疾病予防、健康増進の一 助として、年2回幹旋実施
	紳士服、レディース用品 (対象:組合員病院の全職員)	○(株)青山商事と提携 「洋服の青山」で買い物時、「AOYAMA タイアップカード」(入会無料) の提示により、通年、10%の割引(割引セールの場合は割引後の価格 から)が受けられる。(福利厚生の一助として)
引越 (対象:組合員病院及び組合 員病院の全職員)	○(株)サカイ引越センターと提携 「特別割引専用ダイヤル」(TEL 0120-56-1141)で申込みと、特別優待 割引(引越基本料金の20%以上割引。但し3月15日～4月15日は除く) が受けられる。(福利厚生の一助として)	

※上記以外にも、オゾン方式グリーストラップ改善装置、転倒リスク軽減離床センサー、多言語映像通訳等の
病院関連商品をはじめ、病院運営に役立つ物品・機器の紹介や幹旋をおこなっています。

※また、院内業務改善やコスト削減、患者様へのサービス向上、職員の満足度向上等をお考えの組合員病院様に、
実現へのお手伝いができるよう、組合から適切な事業者・事業をご紹介します、ご提案などをさせていただきます。
お気軽にお問合せ下さい。

加入病院 120病院
 主な取引銀行 商工中金、みなど、日新信金他
 理事長 西 昂 (医療法人康雄会 西病院理事長)
 専務理事 鄭 正 秀 (医療法人社団博愛恵秀会 神戸博愛病院理事長)
 常務理事 森 村 安 史 (医療法人樹光会 大村病院理事長)
 事務局長 谷 水 直 人

- ・協同組合には10万円の出資金のみ拠出いただければご加入できます。ご加入後は年会費など頂戴するこ
とはありません。
- ・取扱い業務並びに組合加入その他詳細は協同組合事務局へお問い合わせください。

協同組合事務局・TEL (078) 230 - 2525
 FAX (078) 230 - 2526



(一社)兵庫県民間病院協会会報

令和7年1月25日発行・通巻647号

発行人 一般社団法人 兵庫県民間病院協会会長 西 昂

〒651-0086 神戸市中央区磯上通6丁目1番11号 兵庫県医師会館7F

TEL (078) 230-1181 Eメール info@hgminkanhp.or.jp

URL <https://www.hgminkanhp.com>

編集者 東 靖人、榊 政重、榎本暁士、原 正也、山田泰嗣、吉田明史

印刷 (株)七旺社 神戸市長田区二番町4丁目27番地・TEL (078) 575-5212(代)